



京都大学 (京都府)

多様なインプットとあくなき知的探究

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

- 1) 京都大学は1897年の開学以来個性的でアカデミックな学風を打ちたて、現在もその精神は健在である。今日では、10学部、18大学院研究科、30を超える研究所やセンターおよび図書館、病院等を有する日本有数の総合大学として、学術・文化の発展に貢献している。
- 2) 京都大学の教員数は、2025年5月1日現在3,531名であり、12,721名の学部学生、9,644名の大学院生が、吉田、宇治、桂の3キャンパスに分かれて勉学、研究に励んでいる。

| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |
|-------|-----|-----|-------|----|
| 1,082 | 910 | 297 | 1,241 | 1 |

(2025年5月1日現在)

② 國際交流の実績

京都大学では2025年5月1日現在、111ヶ国・地域からの、3,021名の留学生が学んでいる。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターはこれらの学生の勉学・研究を、教育・生活の面から支援している。

京都大学は、国際交流の拠点大学として54ヶ国・地域の176大学2大学群15機関と大学間学術交流協定を提携しながら、学術国際交流を推進している

(2025年4月1日現在)。部局間学術交流協定を締結している機関数も715に上り、日常的に学術国際交流が可能な環境が整備されている。さらに、大学間および部局間学生交流協定校との間では、交換留学生の受け入れや日本人学生の海外留学を推進しつつ、世界的な視野で考え、行動できる学生の養成に大学全体として力を入れている。

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 3,021人、日研生 16人
2024年：留学生数 2,942人、日研生 17人
2023年：留学生数 2,988人、日研生 14人

④ 地域の特色

京都は美しい自然に恵まれ、千年有余の歴史と豊かな伝統を誇る古都として世界的に有名であるが自由闊達な精神を育んできた学術の街としても知られる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、将来日本をフィールドにしながら、教育・研究分野、外交分野、国際機関、多国籍企業等での人的交流のかなめとなる役割を担うことが期待される人材を養成する京都大学のプログラムである。



↑百周年記念時計台（吉田キャンパス本部構内）

自国で日本語や日本文化を学んでいる学生が、1年間京都大学に留学することによって、日本語はもとより、多様な日本の文化や現代社会にも接し、理解を深めるプログラムを提供する。

更に、世界各国からの学友との共学や、課題研究への取り組みを通して、世界を視野に入れた幅広い思考力と実践力を育成する。

③ 受入定員

18名（大使館推薦14名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 資格

日本語能力試験（JLPT）N2相当の日本語力を保持し、在籍大学で日本語・日本文化を中心に学んでいる学生であること。

2) 条件

京都大学の研修プログラムでは日本人学生とほぼ同等の内容の講義が、ナチュラルスピードの日本語で行われる。また修了論文作成の一環として文献を読み、研究・調査を行い、発表することになっており、最終的に論文を執筆する。プログラム参加者にはこれらを受講し、修了研究論文作成を行うことのできる日本語運用能力が求められる。更に、研修プログラムを受講するための基礎的知識・学力を備えていることが望ましい。

⑤ 達成目標

このプログラムでは、日本社会・文化に対する見識を深め、同時に学術レベルの高度な日本語力の修得を到達目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年9月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

| | |
|-------|--------------|
| 9月下旬 | 渡日 |
| 9月29日 | 履修ガイダンス（予定） |
| 10月上旬 | 図書館利用ガイダンス |
| 10月下旬 | 奈良東大寺見学 |
| 11月上旬 | 和菓子作り体験 |
| 11月下旬 | 街並み散策・町家見学 |
| 12月上旬 | 企業見学 |
| 12月上旬 | 歌舞伎鑑賞会 |
| 12月中旬 | 能楽鑑賞会 |
| 12月中旬 | 裁判所見学・裁判傍聴 |
| 1月上旬 | 京都国立博物館見学 |
| 2月中旬 | 実地見学旅行（1泊2日） |
| 4月中旬 | 茶道体験 |
| 4月下旬 | 俳句作り・句会 |
| 5月上旬 | 通訳教室 |
| 5月下旬 | 庭園見学 |
| 6月上旬 | 高校訪問 |
| 6月中旬 | 文楽鑑賞教室 |
| 6月下旬 | 書道教室 |
| 7月上旬 | 産経新聞大阪本社訪問 |
| 7月中旬 | 祇園祭見学 |
| 7月下旬 | 座禅体験 |
| 7月下旬 | 修了研究発表会 |
| 8月上旬～ | 修了研究論文最終稿作成 |
| 9月10日 | 修了式（予定） |
| 9月下旬 | 帰国 |

⑨ コースの修了要件

本プログラムに1年間在籍し、次のa)、b)、及びc)を満たした学生に対し、本プログラムの修了を認定し、修了証書を授与する。

a) 次の各分野の必修、選択必修科目から計32単位以上を修得すること。日本文化科目：選択必修12単位、日本語科目：必修16単位、日本語・日本文化研究論文作成演習：必修4単位

b) 日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文を提出し、審査に合格すること。（4単位）

c) 合計90時間の日本文化研修に参加すること。

修了判定は国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター運営委員会にて行う。

上記授業科目の成績を記載した履修証明書を発行すると共に、修了要件を満たした学生には修了証明書を授与する。

母国大学の学期開始のため早期帰国が必要な学生は、帰国前に修了研究論文第1稿を提出し、帰国後に完成稿を提出することを条件に、8月中旬以降の早期帰国が認められる。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

| 授業科目名 | 必修・選択 | 単位数 | | 時間数 |
|-------------------|------------------------|------|----------------------|-------|
| | | I期 | II期 | |
| a) 必修・選択科目 | | | | |
| 日本文化科目 | 日本社会論 | 選択必修 | 6 (最大取得可能な単位数:10) | 30 |
| | 現代日本の社会問題 | | | 30 |
| | 日本の経済 | | | 30 |
| | 日本の法と政治 | | | 30 |
| | 日本の歴史と文化 | | | 30 |
| 日本語科目 | 人文・社会科学科目群 推奨科目 | 選択必修 | 6 (推奨取得単位数:8) | 各30時間 |
| | 日本語概論 | | | 30 |
| | 日本語アカデミック・リーディング | | | 30 |
| | 日本語アカデミック・ライティング I | | | 30 |
| | 日本語アカデミック・ライティング II | | | 30 |
| 修了研究 | 日本語アカデミック・プレゼンテーション I | 必修 | 2 | 30 |
| | 日本語アカデミック・プレゼンテーション II | | | 30 |
| | 日本語の歴史 | | | 30 |
| | 日本語教育演習 | | | 30 |
| | 論文作成演習 I | | | 30 |
| b) 修了研究論文 | 論文作成演習 II | 必修 | 2 | 30 |
| | 修了研究論文 | | | 4 |
| c) 日本文化研修 | | | | |
| | | | | 90 |

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、日本に対する理解を深めることを目的に、日研生専用の日本文化科目や日本人学生と共に学ぶ人文・社会科学科目群推奨科目を履修する。

また、京都の豊かな伝統と文化を直接体験する日本文化研修を実施している。更に、日本語・日本文化研究論文作成演習やアカデミック・ジャパニーズ科目を通して、調査・研究に必要なアカデミックスキルや高度な日本語力の修得を目指す。また、自らの関心事を切り口に日本を探究する修了研究に励むことにより、学習を通して得られた知見の更なる深化を図る。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目（10科目、300時間）

・日本語概論

人称表現、授受表現、配慮表現などを考察対象としながら、日本語の特徴について学ぶ。

・日本語アカデミック・リーディング

学術論文や専門書の構造を理解し、必要な情報を素早く、且つ的確に読み取るリーディング・スキルの習得を目指す。

・日本語アカデミック・ライティング I・II

実践的練習を行なながら、論文・学術レポートを日本語で書く上で必要な知識・技能を習得する。

・日本語アカデミック・プレゼンテーション I・II

日本語でのアカデミック・プレゼンテーションのための日本語技能を高め、構成力、表現力等を習得する。

・日本語の歴史

日本語がどのように生まれ変化してきたのか、どのような表記を用いていたのか、どのような発音であったのかなど、日本語の歴史について学ぶ。

・日本語教育演習

文学部・文学研究科の学生と共に「魅力的な日本語」及び習得が困難な日本語の学習項目を選定し、それらを多角的に分析しながら、学習者の興味を喚起し、正確な習得を促進する指導法を探究する。

・日本語・日本文化研究論文作成演習 I・II

各学期 4クラスずつ開講。日本をテーマにした論文を作成するため必要な資料の収集方法や扱い方、論文作成の方法を個別に指導する。本科目の一環として論文構想発表会、中間発表会、修了発表会を実施し、研究の中間・成果報告を行う。

・日本語・日本文化研修プログラム修了研究論文

日本に関わるテーマについてオリジナリティのある論文を執筆する。執筆した論文を「日本語日本文化研修留学生報告書」として発行している。

II) 選択必修科目 (5科目中3科目を履修、90時間)

・日本社会論

日本の伝統社会が各時代を通じて、どのように変化してきたのか、その過程において“近代化”が果たした役割とは何かについて理解する。

・現代日本の社会問題

人口構造・ジェンダー・雇用・不平等に焦点を当てつつ、現代社会問題の歴史的変遷と現状を把握する。

・日本の経済

標準的なマクロ経済学の概念および手法を身に付け、それに基づいて日本経済で過去に起きたこと、現在起きていることを理解する。

・日本の法と政治

日本法の歴史を踏まえつつ、日本政治の実際の動きについて知見を深める。

・日本の歴史と文化

古代から現代に至る日本の文化を、文学、歴史、哲学、美術等の多方面から考察する。長い歴史を経て、日本のさまざまな文化的所産がいかに形成され、また時代の流れとともにいかに変貌を遂げてきたかを考える。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

日本、とりわけ京都の文化の特質や歴史的変遷を理解することを目的に各学期45時間の日本文化研修を行う。同研修は原則的に事前講義と体験から構成されており、文化の担い手や高校生等との地域交流も含まれる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・選択必修科目 (3科目、90時間)

京都大学全学共通科目の中から日本語・日本文化研修留学生用に選定された推奨科目より各学期 2~3科目を選択して履修する。日本人学生と共に学ぶこれらの科目は、文学、言語、教育、法・政治、

歴史、社会の諸分野より自らの専攻分野や関心に沿って選択できる。

・大学院生の日本人チューターがグループ活動の形で、日研生の学習や生活のサポートを行う。

⑪ 指導体制

1) 日本語・日本文化研修留学生は京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターの科目等履修生として在籍し、本学で認定した単位を修得する。

2) 日本語・日本文化研修留学生の指導は日本語・日本文化教育センターの教員を中心に担当する。

プログラム主任教員：

ルチラ・パリハワダナ(国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、教授・専門：日本語学・日本語教育学)

プログラム副主任教員：

湯川 志貴子(国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター、准教授・専門：日本古典文学)

その他日本語・日本文化教育センター専任教員数名が主として指導にあたる。

■宿 舎

すべての日本語・日本文化研修留学生は、原則として京都大学国際交流会館修学院本館、百万遍国際交流会館(いずれも京都市左京区)等の留学生・外国人研究者用の寮に入居し、生活を送る。家賃は单身室で月2万円~3万円台で、入居日は9月末の平日、退去日は9月中旬頃となっている。また、民間アパートを希望する学生は、京都市内のアパートを自分で探すこともできる。家賃は月平均5万円程度であるが、入居の際には敷金・礼金を支払う制度があり、家賃1~3か月分程度の費用が別に必要となることが多い。



←文化を直接
体験する豊富
な機会

2023年10月~2026年9月までの3年間における日本語・日本文化研修留学生の宿舎入居実績は47名中45名である。

■修了生へのフォローアップ

修了日研生の主たるキャリアパスとして、日本企業・日系企業への就職、大学院進学やその後の教育・研究分野でのキャリア、外交官などが挙げられ、母国と日本をつなぐ架け橋として、グローバルに活躍している。

日研生が本学で修得した単位を母国大学の卒業課程の単位として振替できるよう、修了後に必要な証明書の発行や情報提供を行っている。

修了日研生に対し、日本の大学院への進学のサポートや必要に応じて就職等のための推薦を行っている。

また、修了日研生との日常的な交流を絶やさないように努めており、メールでの連絡を通した近況把握・アドバイシングの実施、修了日研生が渡日した際や担当教員が協定校等を訪問する際の面会などを行っている。本学大学院進学者に対しては後輩に情報を提供する機会を作ることにより、日研生同士のネットワーク作りを手助けしている。更に、修了日研生の出身大学の教員と交流を深めることを通して、ネットワークの強化に努めている。

■問合せ先

＜担当部署＞

京都大学国際高等教育院附属

日本語・日本文化教育センター

担当事務：学務部留学生支援課 日本語教育掛

住所：〒606-8501

京都府京都市左京区吉田二本松町

TEL：+81-(0)75-753-9586 (直通)

FAX：+81-(0)75-753-3316

Email：A30kyomuj@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

京都大学日研生ウェブサイト：

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/students2/japanese/toku>

京都大学国際高等教育院：

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>



京都教育大学

(京都府)

「体験しよう！京都」Experiencing Kyoto Program at Kyoto University of Education(EKYP at KUE)

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

京都教育大学は、1876年（明治9）年に創設された京都府師範学校を受け継ぎ、150年近い歴史と伝統を有しています。

本学は、教員養成単科大学ですが、学部には、教育学、国語、社会、理科、美術、音楽、体育をはじめ、13の専攻がある「教育の総合大学」です。大学院としては、京都の複数の大学が連合した教職大学院「連合教職実践研究科」が設置されています。

キャンパスの面積は14万m²で、緑が多く自然に恵まれています。附属施設として、6つの附属学校、図書館、教育資料館などがあります。



緑の美しいキャンパスと桜並木

② 国際交流の実績

大学間交流協定数 6（中国、韓国、タイ、カナダ、ドイツ）

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

| | | | | |
|-------|------|-----|-----|----|
| 2025年 | 留学生数 | 15人 | 日研生 | 4人 |
| 2024年 | 留学生数 | 18人 | 日研生 | 5人 |
| 2023年 | 留学生数 | 23人 | 日研生 | 7人 |

④ 地域の特色

京都は日本を代表する古都で、世界遺産に選ばれた多くの文化財、豊かな精神文化を有する街です。

また、現代的な京都駅ビルの建築やマンガミュージアムも有名です。古い歴史と新しい文化がともに体験できる街だと言えます。

大学のある伏見区は京都市の南部に位置しています。伏見は数々の歴史ドラマの舞台となった街です。とくに酒の産地として有名で、いまも古い酒蔵が残っています。

大学のすぐ近くには、5月5日の端午の節句の発祥の地である藤森神社や、赤い鳥居が美しい伏見稻荷大社があります。

大学から京都の街の中心部までは電車で15分程度で、交通も大変便利です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

教育は文化であり、文化は教育によって継承されます。「体験しよう！京都」は、教育を切り口に日本を体験的に理解することを目的としたプログラムです。

大学での授業を受ける以外に、コミュニティ・ラーニングなどを通じて地域の人々と交流する機会をたくさん準備しています。日本語の実践力を向上させるとともに、教科書の中の日本とはちがう、自分なりの視点から日本に対する理解を深めることができます。

③ 受入定員

11名（大使館推薦 10名、大学推薦 1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 原則として、日本語・日本研究等を専攻する者
- 日本語能力試験（JLPT）のレベルN3以上に合格している者

⑤ 達成目標

＜日本語＞

終了時にCEFRまたはJFスタンダードB2に相当するレベル (CEFR: Common European Framework for Reference, JF: Japan Foundation)

＜日本文化＞

日本文化を理解するための、幅広く、ユニークな観点を獲得する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年 9月下旬～ 2027年 9月下旬

（在籍期間：2026年10月 1日～ 2027年 9月30日）

※授業開始に間に合うよう、2026年9月末日までに来日してください。

※修了式は2027年9月下旬を予定しています。

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～ 2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日（2025年は9月24日～25日）

2026年9月： オリエンテーション

2027年4月： 個別研究中間発表会

5月： 国際交流実地見学研修

9月： 個別研究修了発表会・修了式

9月下旬： 帰国（2025年は9月20～30日）

この他にも、本学学生と合同で実施する国際交流実地見学研修、伝統文化体験や国際交流会館自治会主催のパーティーがあります。

⑨ コースの修了要件

以下の修了要件を満たした者には修了証明書を授与します。

（i）必須科目（世界の教育60時間、日本語120時間、一般科目180時間以上）の単位修得

※ 取得した単位については、成績証明書の発行が可能。

（ii）コミュニティ・ラーニング

（活動参加とレポート作成）

（iii）個別研究（発表とレポート作成）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

シラバス

<https://kyoumu.kyokyo-u.ac.jp>

授業はすべて日本語で行われます。

1) 研修・コース科目の特徴

「教育」という切り口から日本を体験的に理解します。日本人学生と一緒に大学の授業を受ける以外にも、コミュニティ・ラーニング等で交流し、日本に対する理解を深めることができます。

2) 必須科目

- ・ 世界の教育 A 30時間
- ・ 世界の教育 B 30時間
- ・ 日本語（3つのレベルから選択）120時間

3) 選択科目

本学学部生向けに開講されている科目のうち「日本語学・日本語教育学」「文化・芸術」「開発教育・国際教育」の各分野から選択した授業の履修分野毎に60時間以上、合計180時間以上

4) 見学、地域交流科目等の参加型科目

・ コミュニティ・ラーニング

大学のサークルや市民ボランティア活動に参加しレポートを作成します。日本社会にゲストとしてではなく社会の一員として参加する体験を通じて、日本社会についての理解を深めます。

活動時間 30時間以上

・ 国際交流実地見学研修

日本人学生といっしょに歴史史跡や文化施設を見学します。



国際交流実地見学研修（アニメのロケ地になった滋賀県の施設にて）

5) 日本人学生との共修等の機会

- ・ 日本語科目以外は全て大学学部の正規の授業で、日本人学生といっしょに学びます。
- ・ 個別研究発表会や国際交流実地見学研修には日本人学生も参加し質疑を行います。
- ・ 世界の教育 A 及び B は、本学の全ての学科の教員が交代で担当し、本学の全留学生と日本人学生も受講します。日本文化について、日本人学生との共修を通じて様々な角度から考える機会になります。

6) その他

授業科目以外に、地域との交流プログラムや京都市国際交流協会の国際理解プログラムPICNIKIに参加することができます。地域の学校を訪問して自分の国を紹介します。

⑪ 指導体制

研修生は教育学部に所属し、教育学部教員の指導を受けます。指導教員が推薦したチューターが学習と生活を支援します。

また、プログラム担当教員がプログラム履修全般の相談に対応します。

プログラム担当教員：濱田 麻里・岡田 雄樹・亀田直記（国際交流委員会）（2025年10月31日現在）



■宿 舎

本学が管理する国際交流会館に入居することができます。

○家賃

・家賃（5,900円／月）+共益費（5,900円／月）

※物価上昇等により額が変更となる場合があります。

入居時に保証金として20,000円が必要です。

これは原則、帰国時に返金されます。

○宿舎設備・備品

各居室に冷暖房設備、給湯設備、バス・トイレ、ミニキッチン、家具類が備え付けられています。寝具は必要に応じてレンタル出来ます（約19,800円／年）

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

近くにスーパーマーケット、病院、公園等があります。大学まで徒歩で約15分、京都の中心まで約30分です。

■修了生へのフォローアップ

研修終了後も指導教員がメールで相談に応じています。また、修了生同士はSNSで交流を続けています。

これまでの修了生の多くは、研究留学生として再来日しています。日本の大学院で学位を修得した後、母国や日本の大学で教員として後輩を育てている人も多いです。

また、企業や外務省、NGOなどに就職し、学んだ日本語を使って日本と母国の架け橋として活躍している人もいます。

■問合せ先

＜担当部署＞

京都教育大学学生課学生支援グループ

住所：〒612-8522

京都府京都市伏見区深草藤森町1番地

TEL：+81-75-644-8159（直通）

FAX：+81-75-644-8169

Email：intel@kyokyo-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

京都教育大学：

<https://www.kyokyo-u.ac.jp>

日本語・日本文化研修留学生プログラム「体験しよう！京都」

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/student/ehp/this/ekyp/>



そったくん

マスコットキャラクター そったくん

そったくんは、禪の教え「啐啄同時」に関係があります。雛鳥が外に出ようと殻を吸う瞬間に母鳥が外からつつくことが大切なことから、教育全般のありかたについての教えになっています。そったくんは、教育者養成を目的とする京都教育大学を象徴化しています。



THE UNIVERSITY OF
OSAKA

大阪大学 (大阪府)

一人一人への丁寧な指導・豊富な選択科目・目的別のコース

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪大学は、1931年に帝国大学として創設された伝統ある大学です。2007年10月、大阪外国語大学と統合し、新しい大阪大学となりました。学生の教育においては、高度の専門性とともに、幅広い学際的視野を身につけた人材を育成することに力を注いでいます。

現在は、総合大学として、11の学部があり、そのほか15研究科、6附属研究所、4附属図書館、2附属病院、30を超える教育研究施設などが置かれています。学生数は約23,300名、教職員数は約7,000名です。

大阪大学には、吹田、豊中、箕面（みの）の三つのキャンパスがあります。且研生プログラムは箕面キャンパスにある日本語日本文化教育センター（CJLC）を中心として実施しています。

② 國際交流の実績（2025年5月1日現在）

大学間交流協定数 159件、海外留学生数 653名

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 2,719名、日研生 53名
2024年：留学生数 2,669名、日研生 62名
2023年：留学生数 2,781名、日研生 55名



伏見稻荷大社見学

④ 地域の特色

箕面市は大阪府の北部、北摂と呼ばれる地域にあります。「明治の森箕面国定公園」など豊かな自然環境に恵まれています。箕面市の市民が留学生のホストファミリーになって交流する「ホームビギットプログラム」も行われています。



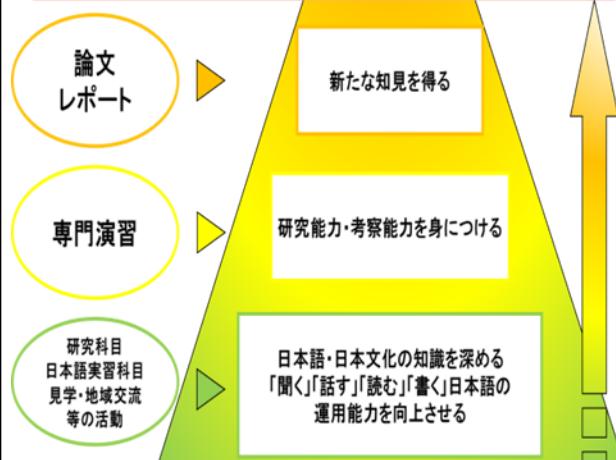
箕面の滝

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本語・日本文化の分野で活躍できる人になる



② 研修・コースの特色

☆1対1に近いていねいな指導

学生には必ずひとりの先生がアドバイザーになります。アドバイザーは勉強や生活に対してアドバイスをするほか、毎週、少人数制の授業をおこないます。その授業では、学生ひとりひとりに対して、テーマにあわせた指導をします。

☆自由に選べるたくさんの授業

授業は週に100以上あり、すべて留学生のために準備されたものです。日本語能力を高める授業と、日本語・日本文化についての知識を身につける授業とがあります。学生はレベルや目的にあわせて自由に組み合わせて選ぶことができます。

☆目的に合わせた二つのコース

日研生プログラムには二つのコースがあります。

○研究コース：日本語・日本文化について研究することを希望する学生のためのコースです。それぞれの研究分野に関する知識や方法を学ぶ中で、日本語・日本文化を研究するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研究成果について、論文を完成させます。

○研修コース：将来社会で幅広く活躍することを希望する学生のためのコースです。自らの活動報告やグループ・ディスカッションを行ったり、学内外研修に参加したりする中で、日本語・日本文化を考察するために必要な能力を身につけます。コース修了時に、研修成果について、レポートを完成させます。

③ 受入定員

60名（大使館推薦40名、大学推薦20名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の条件を満たす留学生が日研生プログラムの受講を希望することができます。

1. 渡日及び帰国時点で外国（日本国以外）の大学の学部に在学し、日本語・日本文化に関する分野を専攻していること。
2. 日本語学習歴が2年以上あること。
3. 基本的な日本事情の知識を有すること。

⑤ 達成目標

1. 日本語実習科目の授業を受けて、日本語の運用能力を向上させること。
2. 研究科目の授業を受けて、日本語・日本文化についての知識を深めること。
3. 専門演習科目の指導を受けて、研究・考察能力を身につけること。
4. 研究・研修の成果について、日本語の論文・レポートを作成し、口頭発表できるようになること。

※ 大阪大学の日研生の多くは修了時に日本語能力試験N1合格レベル以上の日本語運用能力に到達しています。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間 2026年9月下旬～2027年8月中旬
(在籍期間 2026年10月1日～2027年8月31日)
※ 渡日前にオンラインでオリエンテーション

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月



忍者屋敷見学



文楽鑑賞

⑧ 研修・年間スケジュール

(2024～2025年度実施例)

- 8月 渡日前オリエンテーション
- 9月 渡日（9月下旬）
- 10月 チューター開始
研修コース就職セミナー
- 11月 大学祭、
見学旅行（1泊2日・永平寺ほか）
- 12月 学外見学（大仙公園）
- 1月 春～夏学期オリエンテーション
研修コース東大阪町工場見学
学外見学（琵琶湖博物館ほか）
- 2月 秋～冬学期試験期間
研究/研修コース中間発表会
奈良教育大学合同研修（和菓子作り体験ほか）
- 4月 研修コース通訳・翻訳セミナー
- 5月 いちょう祭（大学祭）、チューター開始
研修コース読売新聞大阪本社見学
芸能鑑賞会（歌舞伎）
- 6月 修了生講演会＆ホームカミングデイ
芸能鑑賞会（文楽）
見学旅行（1泊2日・伊勢神宮ほか）
- 7月 春～夏学期試験期間、修了論文・レポート提出
研究コース論文口頭試問
- 8月 研究/研修コース最終発表会、修了式
帰国（8月中旬～下旬）



⑨ コースの修了要件

1. 選択したコースごとに定められた数の必修科目と選択科目を修得すること。
研究コース：必修科目2科目、選択科目18科目以上
研修コース：必修科目2科目、選択科目21科目以上
 2. 中間発表会と最終発表会に参加し、発表を行うこと。
 3. コース修了時に、研究コースは論文を日本語で作成して提出し、口頭試問に合格すること。
研修コースはレポートを日本語で作成して提出すること。
- 上記の三つの要件を満たした学生について、CJLC教授会が修了判定を行い、修了した学生には修了証書および成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

CJLCの1年間は、秋～冬学期（10～3月）と春～夏学期（4～8月）の二学期に分けられ、どちらの学期も15週あります。授業はすべて日本語で行われます。一つの授業（1コマ）は90分間です。

各学期のはじめに日本語のプレースメントテストがあり、初中級・中級・中上級・上級のレベルに分けられます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

日研生プログラムの必須科目は4種類、必修科目と日本語実習科目、研究科目、多文化地域共生科目です。

★必修科目（JDR）

この授業は、ただ一つの必修の授業です。各学期1コマ（30時間）、学生ひとりひとりの研修テーマにあわせて、論文やレポートを作成するための指導をきめ細かくおこないます。これは日研生専用の授業で、大阪大学の日研生プログラムの最大の特色になっています。

修了論文の一例は以下のとおりです。

- ・日本におけるZ世代の理想的な経営理念
- ・8～9世紀日本の教育制度における博士の像
- ・日本語教科書におけるCEFRとJFスタンダード
- ・妖怪のキャラクター化による表象の変化

II) 選択科目・内容

★日本語実習科目（1週あたり約60コマの授業を提供）

日本語能力を高めるための授業です。初中級・中級・中上級・上級の4レベルにあわせて、少人数で行われます。次の6種類の科目があります。

- 読解、聴解、文章表現、口頭表現、文法・語彙：文法や文型を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。
漢字・語彙：漢字や漢語を中心に、すべての日本語能力の基礎になる語彙力を高めます。

★研究科目（1週あたり約40コマの授業を提供）

日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や方法論を身につけるための科目です。中上級・上級の2レベルがあります。

研究科の主な開講科目は次の通りです。

日本語学研究：音声学・音韻論/形態論/統語論/語用論/意味論/類型論/方言

日本語教育学研究：教授法/会話分析/

ICT教育/異文化間コミュニケーション

日本思想文化学研究：伝統文化/宗教文化/民俗学

日本歴史文化学研究：日本史/茶道/日本服装史/

日本美術

日本文献文化学研究：日本文学（古典文学/近現代文学）/伝統芸能

日本近現代文化学研究：社会学/女性学/比較文化/マンガ・アニメ学/メディア文化/映画論

日本社会文化学研究：経済学/国際関係論

など

「日本語実習科目」と「研究科目」は、各学期とも週に合計100コマ以上あります。その中から、秋～冬学期・春～夏学期あわせて18コマ（540時間）以上をレベルや目的にあわせて、自由に組み合わせて選びます。留学生のために準備された授業がこれだけ多く提供されているのは、大阪大学の日研生プログラムの特色の一つです。

★多文化・地域共生科目（セメスター科目）

日本語レベルの区分を設げず、多文化・地域共生社会の実現を目指して、交流行事を企画・運営していく科目です。

備考：単位認定、単位互換

大阪大学の日研生プログラムでは、単位を取得することができません。

単位認定・単位互換については、成績をもとに学生の出身大学に判断を委ねています。

最終発表会



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

「必修科目」では、実地見学や研修があります。
(例：新聞社見学・町工場見学・就職セミナー・通訳・翻訳セミナーなど)

「研究科目」の授業では、授業の内容に合わせて必要な実地見学を行います。
(例：茶道体験・美術館見学など)

また、日本文化についての理解を深め、日本語能力を高めるために、学内外のさまざまな活動を計画しています。（例：見学旅行・歌舞伎鑑賞・文楽鑑賞など）

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本人学生と共に学ぶ授業として次の科目が開講されています。

通年：日本文献文化学研究（日本古典文学）
春～夏学期：外国語学部開講科目（CJLCで選定）
言語学、日本語教育学、民俗学など

⑪ 指導体制

1. 日研生プログラム担当教員：
柴田芳成、立川真紀絵、松村薫子、水野亜紀子、山川太
2. 指導体制・学生の所属等：
学生はCJLCに所属します。学生の指導は、上記教員を含むCJLC教員が担当します。

※必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■宿舎

日研生が入居する寮として、キャンパス内に学生寮（寮費：月額5～6万円程度[注]）があります。寮に入居できない場合は、民間アパート（家賃：月額6万円程度）を紹介しています。

[注] 2025年度現在の金額です。

■修了生へのフォローアップ

CJLCでは、「日研生修了生追跡調査プロジェクト」を組織して、EメールやFacebookを通じて、修了生の近況の把握、情報の蓄積に努めています。修了生の主な進路は、大学院生、大学教員、大使館職員、日本企業勤務などです。また、修了生の必要に応じて、成績証明書・修了証明書を発行しています。

そのほか、毎年「修了生講演会」を開催し、本学で大学院生として学んでいる修了生と日本の企業や地方自治体などで働いている修了生を招いて、在校生に修了後の進路についての情報を提供しています。また、2023年から同日に「ホームカミングデイ」を開催し、日本で進学・就職している修了生が年1回集まり交流する日も設けています。



修了生講演会 & ホームカミングデイ

■問合せ先

<担当部署>

大阪大学 人文学研究科 箕面事務部

日本語日本文化教育センター係

住所：〒562-8678
大阪府箕面市船場東3-5-10

TEL：+81-72-730-5075（直通）
FAX：+81-72-730-5074
Email：cjlcc@office.osaka-u.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪大学のウェブサイト
<http://www.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学日本語日本文化教育センター（CJLC）の
ウェブサイト

<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/>
<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/>

大阪大学の日研生プログラムのホームページ
<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/japanese/program/j/>





大阪教育大学

(大阪府)

個性豊かな大阪の文化を感じながら、日本語を学んでみませんか

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

大阪教育大学は約150年の歴史と伝統を有する、日本で有数の教育大学です。教員養成課程と教育協働学科があり、すぐれた指導力を持つ教員や、社会の発展に貢献し得る人材の育成を行っています。

柏原キャンパスと天王寺キャンパスがあり、大阪府内に11の附属学校園があります。大学院（教育学研究科・修士課程）は3コースからなります。

メインキャンパスである柏原キャンパスは、大阪府東部・柏原市内の金剛生駒紀泉国定公園の中にあります。柏原市は緑豊かな山並みと美しい自然環境、そして古い歴史を持つ町です。柏原キャンパスから大阪市の中心部までは、電車で約30分です。



② 国際交流の実績

2025年10月1日現在、本学には235名の留学生が在学しています。また、現在中国、韓国、台湾、ベトナム、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランド、スイス、キルギス、クロアチア、タイの38大学と学生交流協定を結んでおり、毎年、交換留学生の受け入れ・派遣を活発に行っています。

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数235人、日研生8人
2024年：留学生数246人、日研生10人
2023年：留学生数245人、日研生15人

④ 地域の特色

大阪の文化力

西日本は独自の文化を発展させてきましたが、大阪はその中心都市と言うことができます。大阪は日本の伝統文化を守り育て、現在も日本文化に強力な影響を与え続けています。大阪教育大学で勉強しながら大阪の文化力に触れてみませんか？

大阪弁

大阪で話される方言は大阪弁と呼ばれ、力強くしかしとても温かく心に響きます。また、マンガやテレビドラマの中で、エネルギーでユーモラスな大阪人の特徴として使用されることも少なくありません。そのため、大阪弁は日本人だけでなく留学生にもとても人気があります。大阪教育大学の留学生はもちろん標準的な日本語を勉強しますが、キャンパスの内外で大阪弁を聞く機会がたくさんありますので、大阪弁の特徴も学ぶことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

(1) 日本語

日本語レベルに応じて必要な科目を受講し、日本語能力を高めることができます。

(2) 日本文化

日本の文化や社会、大阪や関西に対する理解を深めるための科目が充実しています。

(3) 個人研究

学生の希望や専門分野に応じて指導教員の指導のもと、修了レポートを書きます。

(4) 文化体験・文化交流

関西、西日本地区での文化研修（年1回）を実施しています。また、本学の学生との交流、地域の学校やボランティア団体との交流も活発に行われ、様々な活動に参加することができます。



③ 受入定員

20名（大使館推薦15名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2相当以上の日本語力があることが望ましい。
- ・以下の本学のルールに同意できる者
研修期間中の車やバイクの運転は原則禁止
キャンパスの敷地内は全面禁煙

⑤ 達成目標

- ・日本語で修了レポート作成・発表をし、学術的な内容を的確に表現できるようになること。
- ・関西を中心に日本の文化を深く理解すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2025年は9月22日渡日）

オリエンテーション

10月：後期授業開始

11月：ホームビジット
日本文化研修

12月：門松作り

2月上旬：後期授業終了

2月：日本文化を楽しむ会

4月：前期授業開始

修了レポートテーマ決定

6月：ホームビジット

7月：修了レポート提出

七夕飾り作り

8月：前期授業終了

修了レポート発表会

修了式

8月下旬：帰国

※スケジュールは変更することもあります



⑨ コースの修了要件

・各学期、セメスター科目で9科目以上（ターム科目の場合は2科目でセメスター科目1科目に相当）の履修

・上記9科目の中には、必ずグローバルセンター開講の日本語科目、および日本文化に関する科目を含むこと

・春学期に「日本文化研究」を受講し、調査／研究を行う

以上の要件を満たした場合、修了証が授与されます。プログラム修了後に成績証明書も発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

・日本語レベルに応じた日本語科目や日本文化・社会に関する科目を受講することができます。

・日本語力が十分あると認められる場合、学部生のための授業も受講できます。

・1科目は90分15回（ターム科目は8回）の授業になります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

「日本文化研究」が必修科目です。修了レポートを作成しその内容を発表することによって2単位取得できます。

II) 日本語科目

| 科目名 | 単位数 | |
|----------------|-----|---|
| | 秋 | 春 |
| 日本語 I a, b | 1 | 1 |
| 日本語 II a, b | 1 | 1 |
| 日本語中上級総合 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中上級読解 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中上級漢字 I, II | 2 | 2 |
| 時事日本語 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中級会話 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中級読解 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中級漢字 I, II | 2 | 2 |
| 日本語中級作文 I, II | 2 | 2 |
| 日本語実践プロジェクト | — | 2 |

III) 日本文化・社会に関する科目

| 科目名 | 単位数 | |
|---------------------------|-----|---|
| | 秋 | 春 |
| 日本文化研究 | — | 2 |
| 関西発見プロジェクト I, II | 2 | 2 |
| 文化交流実践研究 I, II | 2 | 2 |
| 日本の伝統文化 I, II | 2 | 2 |
| 日本の社会と文化 I, II | 2 | 2 |
| 日本の地域社会 | 2 | — |
| 日本の現代社会 | — | 2 |
| 多言語実践プロジェクト | 2 | — |
| 日本語レトリック入門 | 1 | — |
| 日本近代文学読解入門 | 1 | — |
| 日本の法と社会 | — | 1 |
| 異文化間コミュニケーション | — | 2 |
| 日本語の文法 | — | 2 |
| 日本語教育概論B | — | 2 |
| 日本語学研究 I A, I B | 2 | 2 |
| 日本の社会・言語・文化事情 (課題把握編) | 2 | — |
| 日本の社会・言語・文化の未来 (課題解決編) | 2 | — |
| 多文化共生と防災 | 2 | — |
| 多文化共生と教育 | 2 | — |

3) 見学や地域交流等の参加型科目及びその具体的な内容

・「関西発見プロジェクト I, II」は講義と学外見学、フィールドワークを通して関西の地域社会や文化の特徴を学びます。

・「文化交流実践研究 I, II」は地域内の小学校で文化紹介・交流活動を行い、日本の社会や文化、教育について理解を深めます。

・「日本の伝統文化 I, II」は学内の専門分野の教員が担当し、剣道、柔道、陶芸、書道などを学びます。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・「異文化間コミュニケーション」「多言語実践プロジェクト」「日本の社会・言語・文化事情（課題把握編）」「日本の社会・言語・文化の未来（課題解決編）」など、ディスカッションやグループワークを通じて日本人学生とともに学ぶ授業があります。

・本学には以下のような専攻・コースがあり、指導教員と相談した上で、専門にあった授業を受けることができます。

- 日本文学・日本語学・日本語教育を学びたい方
グローバル教育専攻 日本語教育コース
- 日本の教育について学びたい方
教員養成課程
- 音楽・美術が好きな方
教育コミュニティ支援専攻 芸術表現コース

⑪ 指導体制

● グローバルセンター

グローバルセンターの日研生担当教員が主に日本語・日本文化研修留学生プログラムのコードィネートをします。また、授業や日本での生活についての助言をします。

● 指導教員

指導教員が授業の履修や修了レポートについて指導します。指導教員は本学の教員養成課程、教育協働学科の教員から、各学生の興味関心を考慮して選定されます。

● チューター制度

チューター学生が留学生を一対一で支援します。学習や日常生活での助言を行い、留学中の生活をサポートします。



■宿舎

柏原キャンパス近隣地区の大阪府八尾市に留学生のための宿舎（山本国際学生宿舎）があります。山本国際学生宿舎3号棟の部屋を優先的に割り当てます。

<山本国際学生宿舎3号棟>

- * 3DKの部屋を3人でルームシェアし、1人ずつ個室に住みます。
- * 部屋割りは本学にて決定します。

○設備・備品：

- (居室) 机・椅子・エアコン・本棚・寝具(レンタル)
- (共用) キッチン・バス・トイレ・冷蔵庫・電子レンジ・テレビ・洗濯機・洗面台

○宿舎費(毎月) [2025年度現在]

- A : 28,500円 / B : 27,400円 / C : 26,200円
- * インターネット代・寝具レンタル代・光熱水費・共益費等すべて含みます。
- * 金額は部屋タイプ(A, B, C)により異なります。

○デポジット：1か月分の寮費（入居時に必要）

○退去時清掃代：30,000円（入居時に必要）

○特色：レジデント・アシスタント（寮に住み、日々の生活を支援する学生）と管理人が、皆さんのサポートにあたります。

* レジデント・アシスタントとは一部の住居で混住となります。

○収容定員：21名（7戸室）

○所在地：〒581-0013
大阪府八尾市山本町南7-9 大阪教育大学山本宿舎
近鉄大阪線「高安」駅徒歩約5分



■修了生へのフォローアップ

● 修了後の進路

本学で日本語・日本文化研修生として学んだ留学生は、帰国して母国の大学を卒業した後、国費留学生として再び日本で留学したり、日本語力を活用して企業等に就職したりしています。

● 修了後の情報提供

本学グローバルセンターではホームページ等を通して修了生に情報を発信し、コミュニケーションを行っています。



■問合せ先

<担当部署>
大阪教育大学学術部国際課留学生係

住所：〒582-8582
大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL : +81-(0) 72-978-3300 (直通)

FAX : +81-(0) 72-978-3554

Email : ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

<ウェブサイト>

大阪教育大学グローバルセンター :

<https://ger.osaka-kyoiku.ac.jp/>

大阪教育大学 :

<https://osaka-kyoiku.ac.jp>



神戸大学 (兵庫県)

「異文化が息づく開港都市」神戸で学ぶ日本語・日本文化

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 歴史と特色

神戸大学は、1902（明治35）年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を創立の起点としており、120年を超える歴史をもつ国立大学法人です。

「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」、「生命・医学系」の4大学術系列の下に11の学部、14の大学院、1研究所と多数のセンターを持つ日本有数の総合大学であり、先進的で充実した教育・研究環境を備えています。

「真摯・自由・協同」の理念の下、人類社会の貢献に資する普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを目指しており、国際都市として開放性に富む神戸の文化や環境を活かした異文化との交流も重視しています。

2) 教職員・学生数等（2025年5月現在）

- 教員数：1,615名
- 学生数：学部学生 11,543名
大学院学生 4,671名
計 16,214名

（内留学生数 1,339名（87カ国・地域））

② 国際交流の実績（2025年5月現在）

海外の基幹大学との学術交流や留学生の交換を積極的に進めており、世界65カ国・地域の著名な大学や研究所など、392機関と学術交流協定を結んでいます。

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 1,339人、日研生 3人
2024年：留学生数 1,307人、日研生 6人
2023年：留学生数 1,291人、日研生 3人



④ 地域の特色

神戸大学の所在地である神戸市は、1868年に兵庫港として開港以来、国際貿易の拠点として栄え、海外から多くの人や文化を受け入れ、海と山に囲まれた国際都市として発展してきました。

また、神戸市は兵庫県の県庁所在地として、地方の行政、経済、文化、教育の中心的役割を担い、国内でも有数の大都市です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- （a）主に日本事情・日本文化に関する研修
- （b）主に日本語能力向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化研修留学生は、神戸大学グローバル教育センターに所属し、日本語の4技能（読む・聞く・書く・話す）や異文化コミュニケーション、

日本社会や日本文化への理解を深める授業を履修します。各研修生の関心に合わせて、個別の研究テーマについてリサーチする「課題研究」にも取り組みます。さらに、文学部、国際人間科学部、教養教育院で開講される授業を履修することができ、日本人学生と共に学ぶ機会があります。一連の学習を通して、研修生が高度な日本語能力を習得し、日本社会・日本文化に対する深い知識と国際感覚を養うことを目指します。

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

・身分及び専攻

外国（日本国外）の大学に在籍し、日本語・日本文化を主専攻として履修している学部学生。
(ただし、1年次生を除く)

・日本語能力

- （a）主に日本事情・日本文化に関する研修
申込時に、日本語能力検定試験N2相当以上の日本語能力を有する者
- （b）主に日本語能力向上のための研修
申込時に、日本語能力検定試験N3相当以上の日本語能力を有する者

・学業成績

在籍する大学における学業成績が上位の者。

・その他

大学推薦による受入れは、本学と学術交流協定締結大学からの受入れを優先します。

⑤ 達成目標

高度な日本語能力と日本社会・文化に関する豊富な知識を兼ね備えた産官学の専門家を育成することを目指しています。具体的には、日本語・日本文化・日本学を専門とする教育者や研究者、日本語通訳者・翻訳者、知日家として官公庁や企業で活躍する専門家などです。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日

10月：オリエンテーション
秋学期開始

11月：日本文化体験旅行

12月：神戸大学国際学生交流シンポジウム

1月：秋学期 課題研究発表

4月：春学期開始

7月：春学期 課題研究発表

8月：研修終了

修了式

8月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

本コースでは、秋学期・春学期を通じて、必修科目（60時間）、選択必修科目（60時間以上）、選択科目（300時間以上）の修得（計420時間以上）を修了要件としています。グローバル教育センター教員による判定会議で総合的に修了を判定し、修了要件を満たした者に修了証書を授与し、成績証明書を交付します。また、留学生の在籍する大学から照会があった場合には、授業内容や成績に関する資料の提供に応じます。



日本語・日本文化研修留学生修了式

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修科目は、日本語能力を高めるための多彩な日本語科目、日本事情・日本文化に関連する科目、研修生の興味関心に沿った研究テーマに取り組む「課題研究」、文学部、国際人間科学部、教養教育院で日本人学生等と共に履修する学部専門科目及び全学共通授業科目、多様な学生達と共に学ぶ国際/多文化間共修科目などからなります。

このうち、「課題研究」を必修科目とし、日本語の作文科目、ビジネス日本語や異文化コミュニケーションに関する科目を選択必修科目としています。他の科目は、研修生の日本語能力や興味関心に応じて自由に選択できる選択科目としています。

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目（60時間）

・課題研究（秋学期30時間、春学期30時間）

担当教員の指導の下、学期ごとに所定の研究テーマに取り組みます。(a) コースの学生は、春学期の課題研究の集大成として最終発表を行い、10ページ程度の修了レポートを作成します。

(b) コースの学生は、最終発表を必須とし、修了レポートの執筆は学生の任意とします。

秋学期のテーマ：現代日本の社会問題

日本の社会・文化に関する理解を深めるために、自国と日本のジェンダー問題について資料を収集し、発表資料作成に取り組みます。1月下旬に教養教育院の全学共通授業科目「ジェンダーとセクシャリティ」にて研究発表を行い、当該授業の受講生と共に意見交換を行います。

春学期のテーマ：日本語・日本文化・日本社会などに関する研究

研修生各自が興味関心に沿って研究テーマを策定し、指導教員の指導の下、研究に取り組みます。

II) 選択必修科目（60時間以上）

課題研究のレポート執筆のための作文、日本社会や日本人とのコミュニケーションについて理解を深めるためのビジネス日本語、異文化コミュニケーションの授業科目を選択必修科目としています。

II) 選択科目（300時間以上）

研修コースの特徴は、グローバル教育センターが提供する日本語科目に加えて、文学部、国際人間科学部、教養教育院開講の科目も履修できることです。

・日本語科目

基本的にレベルごとに技能・目的別に開講されています。研修生のレベルに応じて、中級から上級レベルの科目を自由に履修できます。

日本語運用能力を補強することを目的として、文法、会話表現、読解、文章表現、漢字語彙と技能別に学習します。上級では学術的なトピックを中心とした日本語学習を通して、大学において教育・研究を円滑に進めることのできる日本語運用能力を習得できます。

過去に研修生が履修した日本語科目（例）

- 日本語IV（読解）
- 日本語漢字・語彙中上級
- 日本語特別演習I（N1対策）

・日本事情・日本文化関連専門科目

主として本学の文学部、国際人間科学部で開講されている日本事情・日本文化に関する専門科目の中から、研修生各自の問題意識・関心に応じて履修できます。これらの科目の履修により、日本文化に関する知識を深めるとともに、日本語・日本文化の修得に必要な方法論・技能等を習得し、日本語・日本文化研究のための基礎を養うことができます。

過去に研修生が履修した専門科目（例）

文学部
日本社会文化論演習・国文学特殊講義・社会学特殊講義

国際人間科学部

日本語コミュニケーション・日本社会文化論・文化翻訳論・コミュニケーション構造論

※他学部の授業も聴講できる可能性があります。

3) 地域見学や地域交流などができる授業

研修生は、グローバル教育センターで開講されている以下のような授業科目を履修し、兵庫や神戸についての理解を深めることができます。

・日本文化演習II

日本および兵庫・神戸の文化を歴史、宗教、政治、社会などの視点を通して多角的に学び理解を深めます。神戸でのフィールドワークが含まれる授業です。

・日本語特別演習 III (地域における国際交流)

地域に住む外国人の生活や国際交流の現状について学ぶ授業です。神戸市における国際交流の現状について、プロジェクトワークを通じて理解を深めます。

4) 国際/多文化間共修授業

研修生は、教養教育院で開講されている以下のような国際/多文化間共修授業を履修することができます。

・グローバルリーダーシップ育成基礎演習

本授業は、国内学生（日本人学生等）と留学生が毎年12月に学外の宿泊施設で開催する神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画、立案、準備、運営を協働で行うプロジェクトベースの学習を通して、多様な他者と協働する際に必要な異文化間能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力を涵養することを目指すもので、日本語・英語のバイリンガルで開講されています。



・複言語共修セミナー（タンデム）

本授業は、国内学生（日本人学生等）と留学生がペアワークによりお互いの母語を教え・学び合うタンデム学習を行います。タンデム学習による受講学生の主体性育成と互恵的な学びを通して、受講学生が自分の言語学習活動の再考を行い、自律学習促進へつなげることをめざします。

⑪ 指導体制

・日研生担当教員の黒田千晴准教授が当プログラム全体を統括します。

a. 学業面

コース期間を通して「課題研究」の指導を行います。

b. 生活面

コース期間を通して、上記の日研生担当教員及びグローバル教育センター（相談指導ユニット）の専任教員2名が必要に応じて相談業務に当たります。

*相談指導ユニット専任教員

- ・河合 成雄 教授
- ・黒田 千晴 准教授

■宿 舎

神戸大学では、留学生数の増加に伴い、希望者全員が大学の留学生用宿舎に入居できるとは限りません。なお、大学では夫婦・家族室については用意できません。

- ・入居期間は11ヶ月間です。
- ・寄宿料：月額 4,700円～21,000円（2025年度）
宿舎によっては、共益費等が必要な場合があります。
- ・宿舎により異なりますが、机、イス、ベッド、冷蔵庫、洗濯機等が備わっています。
- ・通学時間は、電車等を利用して30～50分です。
- ・その他（光熱水費等は各自で負担となります。）



■修了生へのフォローアップ

修了生には、本学の海外同窓会ネットワークへの加入（登録）を呼びかけ、本学の各種情報をお知らせすると共に進学や就職に関する相談などのキャリアサポートも行っています。さらに、同窓生間の情報交換に役立てています。

日研生プログラムを修了した留学生が、在学する大学を卒業後に日本の大学院への進学を考える機会を提供します。

本学を修了した132名のうち、半数以上が日本企業や日本関連の仕事に就き、10名以上が、日本の大学院に進学しています。

Facebook: Kobe University International Alumni Association

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalAlumni>

■問合せ先

神戸大学学務部国際交流課留学生支援グループ

住 所：〒 657-8501
兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL : +81-78-803-5263 (直通)
FAX : +81-78-803-5289
E-mail : stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp

実施担当：
グローバル教育センター 黒田千晴准教授
E-mail : kuroda@port.kobe-u.ac.jp

神戸大学HP :

<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学留学生向けHP :

<https://www.kobe-u.ac.jp/en/academics/>

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センターHP :

<http://www.gec.iphe.kobe-u.ac.jp/>



奈良教育大学 (奈良県)

古都・奈良で学ぶ 日本語・日本文化実地検証プログラム

-やまと-

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

本学は1888年に奈良県立尋常師範学校として創設されて以来、2025年で137年の歴史を有している。

学部、大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）・修士課程を設置し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ることを目的としている。教職大学院では高度な専門性と実践力を備えた教員を養成する。修士課程は伝統文化教育・国際理解教育専攻を有し、本学がユネスコスクールであることにも即し、多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる人材を育成し、多くの留学生を受け入れている。

2) 教員・学生数等：

教員数 95人 学生数 1,303人

② 国際交流の実績

現在9か国16大学と国際交流協定を結び、小規模大学ながら活発に国際交流を行っている。

特に学生交流では、教員養成大学の特性（さまざまな専門領域の教育が提供されている）、古都奈良の特色を生かした留学生プログラムが高く評価されており、毎年、学部・大学院の正規留学生だけでなく、協定大学をはじめとする多様な国・地域からの留学生を多く受け入れている。

とりわけ日本語・日本文化研修留学生（以下、日研生）は、1987年に初めて1名を受け入れて以来、現在までに約40か国から約200名を受け入れてきた、大きな実績がある。（④地域の特色参照）

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数57人、日研生6人

2024年：留学生数60人、日研生7人

2023年：留学生数44人、日研生5人

④ 地域の特色

本学がある奈良市は、8世紀には都（平城京）がおかれて国際交流都市として日本の国家や文化の礎がつくられたところである。そのため、現在でも町の中に伝統が色濃く残っており、過去と現在が交差するユニークな都市である。

2010年には平城遷都1300年を迎え、益々国際交流に力を入れている。留学生に対しては地域からの期待も大きく、たくさんのサポートを受けることができる。

また大阪、京都にそれぞれ電車で1時間以内で行くこともできる。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

以下の（a）（b）両方を対象とする。

（a）主に日本事情・日本文化に関する研修

（b）主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

本学はユネスコ世界遺産「古都奈良の文化財」に登録された社寺まで歩いて行けるだけでなく、本学内でも8世紀の寺の遺構が発掘されるなど、伝統文化を日常の中で体感できる、他にはない大学です。このようない立地条件で提供するプログラム「やまと」の特色は以下のとおりです。

1) 日本文化の原点とも言える地にあるという利点を生かして、伝統文化が現代文化とどのように共存しているか、またその背景にある日本人の価値観とは何かが理解できるように、講義だけでなく、実地研修の中で指導する。

2) 日本語、および日本文化関連の授業、実地検証などにおいて日研生独自の年間カリキュラムを提供する。

3) 教育大学であることの特色を生かし、附属学校園の授業に日本人学生とともに参加したり、子ども達と交流することで、日本の教育の実状も体験できる。

4) 留学期間をとおして（特に後半の修了レポート作成において）、日研生各自の興味の対象に沿う指導を行う。

③ 受入定員

21名（大使館推薦15名、大学推薦6名）

④ 受講希望者の資格、条件等

規則を守り、真摯に日本語・日本文化を学習する意欲のある者
日本語能力試験（JLPT）N2以上の日本語能力が望ましい。
また、少なくとも2年以上の日本語学習歴、専攻は日本語学、日本文学、日本語教育、日本学、比較文化学であることが望ましい。

⑤ 達成目標

1) 日本語・日本文化をテーマとした研究・研修の成果に関する日本語の論文・レポートを作成できる
2) 大学での研究や社会生活に必要な日本語運用力を身につけること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年9月下旬～2027年8月下旬
(修了認定は9月中旬～下旬となるため、
修了証書は後日郵送する。)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月中旬～下旬：渡日、オリエンテーション
 10月： 秋学期授業開始、秋季留学生懇談会（歓迎会）
 11月： 日帰り学習旅行、大学祭
 1月： 文化体験（1回目）
 3月： 文化体験（2回目）
 4月： 春学期授業開始、春季留学生懇談会（歓迎会）
 宿泊学習旅行
 7月： 文化体験（3回目）
 8月： 修了発表会 8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

- 以下の要件を満した場合、国際交流推進室がコース修了を認定し、修了証書を発行する。
 ・秋学期、春学期で指定された科目を含む合計14科目以上（各学期7科目以上）を履修し合格すること
 ・コースで定められた実地研修に参加すること
 ・本コースの成果として、日本や日本文化に関するレポートを日本語で作成すること
 ・成績証明書の発行（各学期の終了後に発行します）

※単位の認定及び単位互換

本コースで履修し合格した授業については単位が認定される。
 大学推薦の学生は、取得した単位は大学間協定に基づいて互換することが可能である。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コースの特徴

日本語教育に関して、それぞれの日本語能力レベルに応じて、日本語教育の専門家による日本語科目が受けられる（学部留学生向けの科目も組み合わせて受講する）。
 日本語・日本文化関連の授業では、言語・文化に関する深い知識について、その領域の専門家による講義と同時に、プロジェクトワークや学校交流等を取り入れた実践的な日本語使用および文化理解の機会が提供される。

2) 研修・コース開設科目

| 授業科目 | コマ数 | | | |
|------|---------------------------|-----|----|----|
| | 秋学期 | 春学期 | 計 | |
| 日本語 | ★日本語 I (中上級論文執筆技術) | 15 | 15 | 30 |
| | ★日本語 II (中上級読解) | 15 | 15 | 30 |
| | ★日本語コミュニケーション (体験型日本語学習) | 15 | | 15 |
| | ★日本語演習 II (上級アカデミック読解) | 15 | | 15 |
| | ★日本語演習 II (上級小論文執筆技術) | 15 | | 15 |
| | ★日本語演習 I (上級文学読解) | | 15 | 15 |
| | ★日本語演習 I (上級小論文執筆) | | 15 | 15 |
| | ・★日本語能力に応じて指導教員が指定した科目を履修 | | | |

| | | | | |
|-------------------------------|-------------|----|----|----|
| 日本文化 | ※日本文化史 | 15 | | 15 |
| | ※比較文化論 | | 15 | 15 |
| | ※現代日本論 | | 15 | 15 |
| | ※日本人の宗教観 | 15 | | 15 |
| | ※国際文化論 | | 15 | 15 |
| | ※比較言語文化論 I | | 15 | 15 |
| | ※比較言語文化論 II | 15 | | 15 |
| その他 | ※日本語教育論 | 15 | | 15 |
| | ※日本語教授法特講 | | 15 | 15 |
| | 日本語文献講読（言語） | | 15 | |
| | 日本語文献講読（文化） | | 15 | |
| | 修了レポート指導 | — | — | — |
| 日本文化科目、その他の科目のうち、※は日本人学生の受講も可 | | | | |

⑩ 研修・コース科目の概要・特色（続き）

3) 見学、地域交流等の参加型科目

※（ ）内は2024年度実施内容例

10月、11月 地域の小中学校での交流や授業体験
(日本人学生も参加)

12月 日帰り学習旅行（和歌山県）

1月、3月 日本文化の体験（歌舞伎鑑賞、大相撲観戦、他）

4月 日帰り学習旅行（滋賀県近江八幡市）

4) 日本人学生との共修の機会

以下の留学生向け科目（（2）の表※を付した科目）は日本人学生も受講可。

-日本文化史 -比較文化論 -現代日本論

-比較言語文化論 I / II -国際文化論

-日本人の宗教観 -日本語教育論

-日本語教授法特講

また以下の科目でも日本人学生との共修機会を提供している。

-日本人向け科目（授業担当教員の許可の下受講可）

-日本語科目におけるクラス活動（地域の交流の準備時間等）



附属幼稚園児を対象とした絵本の読み聞かせ



附属小学校での交流授業



奈良文化財研究所との連携授業
(2025年の場合)



日帰り学習旅行

5) その他の交流機会

・学内サークルや部活動に参加可能。

・大学主催の国際交流イベント（月1回程度）のほか
地域団体主催の文化体験プログラムにも参加可能。



国際交流イベント「田植え体験」



学生交流のイベント「なっきょん's cafe」

⑪ 指導体制

学業面では以下の教員が個別指導を行う。（ ）内は専門分野

* 和泉元 千春（日本語教育学） izumimotoc@cc.nara-edu.ac.jp

* ヤナセ ペーテル（日本文化） yanase.peter.ps@cc.nara-edu.ac.jp

■宿舎

日研生は、特に事情がない限り、大学の学生宿舎に入居する。

寮費 約19,500円／月（但し、居室光熱費別途）
Wi-fi設備あり。

△その他

来日後に、全員、国民健康保険（月額約2,500円）、外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険（略称：インバウンド付帯学総）（年額約3,000円）に加入する必要があります。
また、胸部レントゲン検査を受けてもらいます。

■修了生へのフォローアップ

①指導体制

帰国後の学生が研究留学生として再渡日を希望する場合には、比較文化学及び日本語教育学を専門とする留学生担当教員がe-mail等で助言している。

②キャリアパス（一例）

日本やその他の国の日本語教育機関において教職、研究職に従事。日本語能力、日本理解を必要とする日本国内外の企業への就職。

■問合せ先

＜担当部署＞

奈良教育大学学生支援課国際交流・留学生係

住所：〒630-8528

奈良県奈良市高畠町

TEL：+81-742-27-9148（直通）

FAX：+81-742-27-9146

Email：ryugaku@nara-edu.ac.jp

＜ウェブサイト＞

奈良国立大学機構

国際戦略センター（奈良教育大学）：<https://www.nara-edu.ac.jp/CIES/>

奈良教育大学：

<https://www.nara-edu.ac.jp/>



奈良国立大学機構
奈良女子大学
Nara Women's University



■大学紹介

① 大学の特色及び概要

本学は、1908年（明治41年）に創設された奈良女子高等師範学校を前身としており、2019年に創立110年を迎えました。この間日本における女性の最高教育機関としての役割を担ってきました。

文学部、理学部、生活環境学部、工学部の4学部、大学院人間文化総合科学研究科を擁し、小規模ながらも幅広い分野の研究教育を実施しています。

教員数は約200名、学生数は約2,700名であり、きめ細やかな少人数教育が特徴です。

② 国際交流の実績

59大学（アジア41大学、欧米等18大学）と国際交流協定を締結しています。

本学を卒業・修了した留学生には、母国の大학교員をしている方を多数います。

奈良女子大学 (奈良県)

日本の原点「まほろば」の地で日本のことばと文化を学ぶ

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 114人、日研生 5人
2024年：留学生数 109人、日研生 3人
2023年：留学生数 121人、日研生 2人
(各年10月1日現在)

④ 地域の特色

奈良は日本の古い都（710年平城京遷都）で、多くの世界遺産に恵まれた日本有数の観光地です。都市部に比べて物価も安く、大阪・京都へも約40分で行けることから、留学生が「日本語・日本文化」を勉強するには最適の場所です。大学は、世界遺産に指定されている寺社や鹿で有名な奈良公園に隣接しています。

研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行います。

② 研修・コースの特色

伝統文化の息づく古都・奈良で、日本語、日本文化について体験的に学ぶことが出来ます。留学生1人1人にチューターを配置し、生活面、学習面でも細やかなサポートを行います。

③ 受入定員

5名（大使館推薦 4名、大学推薦 1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験N2程度の日本語力を有し、2年以上の日本語学習歴がある女子学生。

⑤ 達成目標

- 日本や日本文化について学際的に学び、その理解を深める
- 日本語で論文・レポートを執筆できる
- 日本語能力試験N1相当の日本語力を身に付ける

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月1日～2027年8月31日

（在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日）

修了式は8月を予定



⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

10月上旬：渡日

10月：オリエンテーション、歓迎会、生け花教室
11月：茶道体験教室、大学祭、留学生研修旅行
5月：生け花教室、茶道体験教室
6月：日本語スピーチ大会、留学生研修旅行
8月：修了式
8月下旬：帰国

※その他、留学生と日本人学生の交流事業イベント、研修旅行、奈良のお祭への参加や参観も含めた多数のイベントがあります。



また、「弓道」「競技かるた」「書道」「古美術研究」「筝曲」「能楽」「華道」「茶道」等のサークルに所属できる他、大学が提供する様々な企画に参加することができます。

⑨ コースの修了要件

指定された必修12科目、選択5科目以上を受講し、15科目以上の合格をもって修了証明書（日本語・英語）を発行します。合格科目については成績評価書が発行され、国際交流協定校の学生は、協定に基づいて本籍大学で単位認定を受けることができます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修である日本語科目の他、日本文化や古都奈良についての科目など、日本に関する幅広い分野の科目を日本人と一緒に受講します。

*は日研生専用科目です。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（○コマ数、時間数）・内容

| 科目名 | 秋 | 春 | 時間数 |
|---------------|---|---|-------|
| 日本語ⅠA（文法） | | ○ | 30 |
| 日本語ⅠB（文法） | ○ | | 30 |
| 日本語ⅠC（読解・漢字） | | ○ | 30 |
| 日本語ⅠD（読解・漢字） | ○ | | 30 |
| 日本語ⅡA（聴解） | | ○ | 30 |
| 日本語ⅡB（聴解） | ○ | | 30 |
| 日本語ⅡC（作文） | | ○ | 30 |
| 日本語ⅡD（作文） | ○ | | 30 |
| *日本語学基礎講読Ⅰ/Ⅱ | ○ | ○ | 30/30 |
| *日本語プレゼンテーション | | ○ | 20 |
| *☆修了レポート | | ○ | 30 |
| 計 | | | 350 |



☆ 担当指導教員のもと、4,000字程度の修了レポートを日本語で執筆します。テーマは、担当指導教員と相談して決めますが、日本に関わるものであれば可です。

II) 選択科目（○コマ数、時間数）・内容

| 科目名 | 秋 | 春 | 時間数 |
|-----------------------------------|---|---|-----|
| ビジネス日本語A | ○ | | 15 |
| ビジネス日本語B | ○ | | 15 |
| 日本事情A | | ○ | 30 |
| 日本事情B | ○ | | 30 |
| 国語史概論A | | ○ | 30 |
| 国語学概論B | ○ | | 30 |
| 日本文化と地域社会D(1)/(2) | ○ | ○ | 30 |
| 奈良を知る | ○ | | 15 |
| 環太平洋くろしお文化論 | ○ | | 30 |
| 日本の美と芸術 | | ○ | 30 |
| 日本の言語と文学 | | ○ | 30 |
| ジェンダー論入門 | | ○ | 30 |
| 女性リーダー論 | | ○ | 30 |
| Contemporary Japanese Society A/B | ○ | ○ | 30 |

☆指導教員が認めた場合、上記以外の科目を選択科目として受講することもできます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

| 科目名 | 秋 | 春 | 時間数 |
|--------------------------|---|---|-------|
| スポーツ実習C4 (武道:剣道、なぎなた) | | ○ | 30 |
| 奈良を知る | ○ | | 15 |
| 留学生キャリア形成チャレンジ | | ○ | 15 |
| 国際交流キャリア形成支援 | | ○ | 15 |
| 国際キャンパス奈良への招待A/B | ○ | ○ | 30/30 |

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必須科目と一部選択科目を除き、全て日本人学生とともに学習します。特に、参加型科目の「国際グループワークA/B」は日本人学生と留学生の共修を目的とした科目です。



⑪ 指導体制

コースの運営は、国際戦略センターが文学部言語文化学科日本アジア言語文化学コースと連携して行います。担当指導教員は、各留学生の興味の分野に応じて全学より選任します。担当指導教員は修了レポート指導を行います。

外国人留学生による —日本語スピーチ大会—



■宿舎

①部屋数

- ・国際交流会館 単身用 36室、夫婦用・世帯用 各1室
- ・国際学生宿舎 単身用 32室

②宿舎費

【国際交流会館(单身室)】

- ・家賃: 5,900円/月、
- ・退去時清掃費及び維持管理等の経費: 20,000円 (入居時)

【国際学生宿舎】

- ・家賃: 4,700円/月
- ・清掃費: 10,000円程度 (退去時)

★どちらの宿舎も共益費、光熱水費が毎月別途必要

※宿舎周辺の生活情報、通学時間

宿舎は大学から徒歩5分以内にあり、通学に便利です。最寄り駅からも徒歩5分程度で、駅周辺には店も多く、生活にも便利なところです。

※宿舎設備・備品

ベッド、机、イス、本棚、クローゼット、トイレ、バス完備。キッチン、洗濯室は共用。



■修了生へのフォローアップ

- ・メールによる個別相談
- ・本学大学院への進学相談



■問合せ先

<担当部署>

奈良女子大学国際課留学生係

住所: 〒630-8506
奈良県奈良市北魚屋東町

TEL: +81-742-20-3240 (直通)

FAX: +81-742-20-3309

Email: ryugakusei@cc.nara-wu.ac.jp

<ウェブサイト>

奈良女子大学 留学生のためのサイト:

<https://www.nara-wu.ac.jp/iec/int/ja/index.html>

奈良女子大学:

<https://www.nara-wu.ac.jp/>



和歌山大学

(和歌山県)

～地域とともに学ぶ～ 地域に根ざした和歌山大学で学びませんか？

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

和歌山大学は、1949年（昭和24年）に新制大学として設置されました。本学は、学芸学部（現・教育学部）・経済学部の2学部をもって発足し、1995年（平成7年）10月にシステム工学部を、2008年（平成20年度）4月に観光学部を開設し、4学部からなる和歌山県下唯一の国立大学法人として順調な発展を遂げています。特に本学は学部から大学院（博士前期・博士後期）へ至る一貫した観光学の教育課程を有する国立大学唯一の高等教育機関であり、2017年に国連世界観光機関（UNWTO）が実施する「TedQual認証」を日本で初めて取得し、国際水準の教育を展開しています。

本プログラムでは、日本語・日本文化を学ぶ留学生のための「わかやま日本学プログラム」の科目を履修します。日本語科目および「日本語日本文化研究」の科目以外は、日本人学生との共修科目となっています。

和歌山大学では、留学生ひとりひとりに対して、きめ細やかな指導・支援をしています。

② 国際交流の実績

大学間の交流協定数 85校

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数155人、日研生8人

2024年：留学生数144人、日研生7人

2023年：留学生数144人、日研生7人



和歌山大学マスコットキャラクター
わだにやん

④ 地域の特色

和歌山は温暖な気候、変化に富んだ海岸線、様々な生き物が棲む美しい海、緑豊かな山々、清らかな河川などの豊かな自然、四季折々の多彩な食材などが誇るべき魅力的なところであり、博物学の巨星南方熊楠、世界初の麻酔手術で知られる華岡青洲、国連が「世界津波の日」を制定して讃える濱口梧陵らが生まれ育ち、活躍した土地です。和歌山大学のある和歌山市は大阪市内から約1時間、関西国際空港から約30分のところに位置する人口約35万人の都市です。和歌山県北部に位置するため大阪、京都、奈良にも近く、県南部には世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」もある恵まれた歴史・文化的環境にあります。和歌山市内を一望できる高台にある緑溢れるキャンパスで、伸び伸びと学べる静かな環境が整っています。

また、万葉集に歌われた和歌の浦や和歌山城などの史跡や名所に恵まれた伝統の町でもあります。

地域の方々による異文化交流、NPO支援団体、バディー、学生支援サークル等全面的な留学生支援を活発に行ってています。生きた日本語を学ぶ機会に恵まれています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

プログラム担当教員のアドバイスに従って日本語・日本文学・日本文化に関する授業に出席し、また研究を行う。

③ 受入定員

9名（大使館推薦5名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 専攻が日本語あるいは日本文化等に関する専攻で学習歴1年以上
- 「日本語能力試験N3」程度、又は「実用日本語検定J. TEST D級」程度の学力
- 日本と母国との架け橋人材に相応しい人物

⑤ 達成目標

日本文化を自国の文化と比較することによって、深く理解できるようになります。アカデミックジャーナリズムを習得し、アカデミックライティングの力を付けます。

日研生は、各自1年かけて修了レポートを書き上げます。それを研修成果報告会で発表します。



＜高野山(世界遺産)＞



＜紀美野町・生石高原＞



＜和歌山市・あじろ浜＞



⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年9月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

(記載例)

| | |
|------|------------------|
| 9月下旬 | 渡日（2026年9月25日予定） |
| 9月末 | 開講式及びオリエンテーション |
| 10月 | 第2学期授業開始 |
| 10月 | 秋季留学生歓迎交流会 |
| 11月 | 大学祭 |
| 12月 | 日本語スピーチコンテスト |
| 2月 | 第2学期定期試験 |
| 4月 | 第1学期授業開始 |
| 4月 | 春季留学生歓迎交流会 |
| 5月 | 留学生帰り研修旅行 |
| 6月 | 作文コンクール |
| 8月 | 第1学期定期試験 |
| 9月中旬 | 日研修修了式及び送別会 |
| 9月下旬 | 帰国（2027年9月25日予定） |

⑨ コースの修了要件

取得単位数と修了レポートを総合的に判断して修了を認定します。研修を修了した学生には、修了証書及び成績証明書（和文・英文）、わかやま日本学プログラム認定証明書を交付します。

前期・後期＝必修科目各7科目（14単位）

選択必修科目1科目（2単位）

選択科目3科目（6単位）を含む
11科目（22単位）以上

早期修了は不可能

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

① 4技能のレベルアップを目指し、②日本文化体験を通して、異文化理解を深め、③修了レポートを作成する。レポートは、単なる報告ではなく、各自のテーマについて研究した成果をまとめて発表する。

2) 研修・コース開設科目

| | 科目名 | 時間数 | 単位 |
|--------------|--|-------|----|
| 語学 | 日本語4科目(A～D) | 各30時間 | 各2 |
| | 日本語4科目(K～N) | 各30時間 | 各2 |
| 研究 | 日本語日本文化研究A・K | 各30時間 | 各2 |
| | 日本学概論 | 30時間 | 2 |
| 選択必修 | 日本学演習 | 30時間 | 2 |
| | 日本学特論 | 30時間 | 2 |
| 日本文化関連 選択 | 日本事情 (日本の社会と文化) | 30時間 | 2 |
| | ビジネス・コミュニケーション | 30時間 | 2 |
| | 世界中の日本語 | 30時間 | 2 |
| | ビジネス日本語 | 30時間 | 2 |
| | 外国語として学ぶ日本語 | 30時間 | 2 |
| | <指定した選択科目>※ ・民俗芸能論 ・わかやまを学ぶ ・Japan's Dreams of Affluence ・Japanese Literature and Furusato | 各30時間 | 各2 |
| | 国際開発論 | 30時間 | 2 |
| 国際連携関連 選択 | グローバル社会論 | 30時間 | 2 |
| | <指定した選択科目>※ ・国際協力論 ・ASEANと日本 ・異文化コミュニケーション共同演習B ・Comparative Food Culture and Environment | 各30時間 | 各2 |

※指定した選択科目については、変更の可能性があります。

I) 必須科目

●「日本語中級/中上級/上級A～D, K～N」

日本語日本文化について専門的に学び、研究することができる日本語能力（高度な読解力、テーマを決めて必要な資料を集めまとめる力、レポートや論文を書く力）を付ける。

●「日本語日本文化研究A・K」

日本語日本文化について広く学び、研究レポートを書き、発表する。

●「日本学概論」

社会学、歴史学、民俗学など多角的な視点から、共生を軸に、日本の社会や文化について学ぶ。

II) 選択科目

●「日本学演習」（選択必修）

和歌山及び周辺地域でのフィールドワークを通して、歴史や文化などを学ぶとともに、発表までの一連の活動から日本理解を深めていく。

●「日本学特論」（選択必修）

日本の精神文化、ポップカルチャー、女性問題、日本語を取り上げ、ディスカッションにより、それぞれのテーマを深く考える。

●「ビジネス・コミュニケーション」

ビジネス場面で使用される日本語の会話力や文書力を身につける。

●「外国語として学ぶ日本語」

外国語としての日本語の特徴を学び、実際に外国人に教える模擬授業を行う。

●「ビジネス日本語」

日本文化を理解し、さらにビジネスで必要とされる日本語を学ぶ

●「世界中の日本語」

日本語の特徴を学び、外国人に対する日本語の教え方や、「やさしい日本語」「継承語」など多言語社会における日本語、日本語教育の問題について学ぶ。



<日本学演習：小学校跡地
フィールドワーク>



<日本事情：和歌祭・唐人行列>



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

●「日本事情（日本の社会と文化）」

和歌山の歴史・文化・伝統芸能を学び、地域の御祭りである「和歌祭」に参加することで、地域の人と交流する機会が持てる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

●「日本学概論」（必修）

●「日本学演習」（選択必修）

●「日本学特論」（選択必修）

●「日本事情（日本の社会と文化）」

●「ビジネス・コミュニケーション」

●「世界の中の日本語」

●「ビジネス日本語」

●「外国语として学ぶ日本語」

●「国際開発論」

●「国際協力論」など

日本・和歌山を含めた学生出身国の多様な視点や価値観を理解し、課題に対して新しいアプローチや解決方法を考える能力を身につける。

⑪ 指導体制

1) プログラム指導教員

安本博司准教授（日本語教育）

留学生の勉学上の関心に応じて適宜副指導教員が指導します。

2) 指導体制

日本語・日本文化などに関わる国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター教員および他の学部の教員が指導にあたります。個々の日本語能力に基づいた細やかな指導を行っています。生活面については、国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センターが指導・助言をします。



〈キャンパスの様子〉

■宿舎

和歌山大学では大学に隣接している民間寮（グリーンプラネットハウス）を宿舎として紹介しています。

●部屋のタイプ 単身用（1R）

●宿舎費

月額40,000円～70,000円（通信費込み/食事あり・なしで金額が変わります。）

光熱水費自己負担

入寮時に入寮費（60,000円）、火災保険料（5,000円）布団代（8,000円）を現金で支払う必要があります。

●宿舎設備・備品

個室：ベッド、机、椅子、エアコン、ユニット

バストイレ、バルコニー

共用：ランドリー、自炊室

自転車置き場（無料）

バイク置き場（月額500円）あり

●宿舎周辺の生活情報、通学時間

所在地：和歌山市中（大学まで徒歩約3分）

最寄駅：和歌山大学前駅（バス約5分）

周辺：大型ショッピングセンター（バス約5分）

コンビニエンスストア（徒歩約8分）



〈グリーンプラネットハウス〉



〈日本語・日本文化研修留学生研究発表会〉

■修了生へのフォローアップ

留学生のための進路指導、就職支援を行っています。また、和歌山大学国際同窓ネットワークにて、日本語・日本文化研修留学生には、帰国後も修了者同士が連絡を取り合えるよう国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センターがお手伝いします。

〈和歌山大学国際同窓ネットワーク〉

和歌山大学
国際同窓ネットワーク



■問合せ先

〈担当部署〉

和歌山大学国際イニシアティブ基幹
日本学教育研究センター（国際交流課）

住所：〒640-8510

和歌山県和歌山市栄谷930

TEL: +81-73-457-7524

FAX: +81-73-457-7886

E-mail: kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp

〈ウェブサイト〉

和歌山大学国際イニシアティブ基幹
日本学教育センター（CJS）

<http://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>

和歌山大学国際同窓ネットワーク

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ian/>

和歌山大学ホームページ

<http://www.wakayama-u.ac.jp/>

Instagram



WU INTERNATIONAL CJS

担当（指導）教員：安本博司（准教授）

国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター
メールアドレス：yasuhiro@wakayama-u.ac.jp



兵庫教育大学 (兵庫県)

自然・文化・人が融和する大学で日本の心にふれることができます！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

兵庫教育大学は、主として現職教員の学校教育に関する高度の研究、研鑽の機会を確保する大学院修士課程、初等教育教員を養成する学部を有する教員養成大学として1978年10月に設置された大学です。

さらに、1995年4月には、わが国初の教員養成系博士課程として、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）が設置されました。在籍学生は、大学院、学部生あわせて1,500名であり、教員は、あらゆる分野の専門家を擁しています。

学習環境

雄大な播磨平野の一角に位置し、自然豊かな学習環境にあり、40万m²の広大なキャンパスには、附属図書館、教育研究棟等が機能的に配置され、最新の教育研究設備・機器が整備されています。学生宿舎等も充実し、快適なキャンパスライフが送れるようになっています。

国際的な視野に立つ教員・事務スタッフも充実し、加東市と連携したフレンドシップファミリーのサポート体制も整えています。また、国籍の異なる学生も在籍することから、国際交流の機会も増え、幅広い学習が期待できます。



② 国際交流の実績

大学間交流協定校等：31大学、1機関

欧米地域：ヴァンダービルト大学ピーボディ教育学部、ウィスconsinシティ大学オーケラ校、ハイデルベルグ教育大学、ルツェルン教育大学、ユヴァスキュラ大学、ラトビア大学、カレル大学教育学部、ミュンスター大学、ポルヴォー市教育委員会

韓国：ソウル教育大学校、大邱教育大学校、京仁教育大学校、全州教育大学校、公州大学校

中国：華南師範大学、海南師範大学、湖南理工学院、浙江師範大学、寧波大学、東北師範大学、北京師範大学

（台湾）：屏東大学、台中教育大学、台北教育大学、高雄師範大学、實踐大学

タイ：チュラロンコン大学教育学部、ピブンソンクラム地域総合大学

モンゴル：モンゴル国立教育大学

ベトナム：バリア・ブンタウ教員養成大学、ダナン外国语大学

カンボジア：プロンペン教育大学

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 40人、日研生 1人

2024年：留学生数 43人、日研生 3人

2023年：留学生数 39人、日研生 1人

④ 地域の特色

加東市は豊かな風土に育まれ時代を越えて受け継がれてきた有形・無形の文化財が数多くあります。朝光寺（国宝）をはじめ、国史ゆかりの神社仏閣が多数あり、歴史探訪を誘ってくれます。また、加古川水系に見られる滝など自然に恵まれ、四季折々の変化が楽しめフィールド散策等もできます。さらに秋祭りなど地域密着型の行事から、地域の方々とふれあうことができ、日本人の心のふるさとを感じさせる伝統文化のある地域です。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、1年間で日本の原風景に出会い、日本人の心に接することができる「日本の心探訪」コースと言えます。日本語をマスターし、日本文化に対する見識を高めるために各科目の講義、演習をはじめ、日帰り研修旅行などが用意されるほか、国際交流のための講演会、地域の国際交流活動にも参加できるプログラムとなっています。

③ 受入定員

3名（大使館推薦2名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・外国（日本国以外）の大学に在籍し、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学する者で、帰国時点にその大学に在籍している者（1年生を除く）
- ・J L P T : N 2相当の日本語能力を有する者

⑤ 達成目標

- ・日本語能力の向上を目指す（J L P T : N 1 合格）
- ・実体験を通して日本文化を学ぶ

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月1日～2027年9月30日
(2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

(※予定変更の可能性があります。)

9月下旬：渡日

10月： 秋学期開始
オリエンテーション

11月： 近隣学校への国際交流授業

6月： 日本文化研修

7月： 研究成果発表会

9月： 日本文化体験研修（茶道・華道）
日本語・日本文化研修留学生修了式

9月下旬：帰国（2025年は9月25日）

⑨ コースの修了要件

1) コースの修了要件

下記の授業科目区分のとおり、20単位以上の単位を取得し、特定の課題についての修了論文（レポート）を作成のうえ、研究発表を行うこと。
また、見学、地域交流型参加科目の参加も行うこと。

| 日本語 | 日本文化実習・演習 | 日本文化講義 | 特別研究 | 総修得単位数 |
|-------|-----------|--------|------|--------|
| 2単位以上 | 2単位以上 | 2単位以上 | 4単位 | 20単位以上 |

2) 修了証書の発行

第1期・第2期を通じて、上記の修了要件を満たした者に対し、修了証書（英文・和文）を発行します。

3) 修了時に求められる日本語能力のレベル

日本語により修了論文（レポート）を作成し、日本語での研究発表・質疑応答が出来る日本語能力が求められます。



日本文化研修(姫路城)



⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本コースは、日本語、日本文化実習・演習、日本文化講義及び特別研究の4つの授業科目からなり、グローバル教育センター所属の日本語教育専門教員のもと、履修登録をはじめとしたアドバイスを受けます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

- 日本語コミュニケーション・・・日本語講義・演習（15コマ30時間）
- 外国人児童生徒のための日本語教育・・・日本人学生との共修（15コマ30時間）
- 日本事情・・・日本の自然、社会、歴史、芸術（15コマ30時間）
- 特別研究・・・日本語・日本文化研究及び修了論文

II) 選択科目

<日本語>

- 国語学 I ・・・ 現代日本語（15コマ30時間）
- 国語学 II（音声言語及び文章表現を含む）・・・ 古典学習（15コマ30時間）
- アカデミック日本語・・・日本語の文章作成・発表（15コマ30時間）

<日本文化実習・演習>

- 書写・書道・・・書写の指導方法（15コマ30時間）
- 工芸実技・・・陶芸、染色、漆芸の作品制作（30コマ60時間）
- 合奏演習・・・演奏発表（15コマ30時間）

<日本文化講義>

- 文学と読解・・・日本の近代文学以降の知識習得・読解（15コマ30時間）
- 初等社会・・・日本の初等社会科（8コマ15時間）
- 暮らしのなかの憲法・・・日本の憲法（15コマ30時間）
- 地学 I ・・・ 地震、火山噴火、気象現象、宇宙（15コマ30時間）
- 食物学 I（食品学及び栄養学を含む）・・・食生活（15コマ30時間）
- 食物学 II ・・・ 食品の成分特性、調理過程の変化（15コマ30時間）
- 住居学 ・・・ 住まいのあり方（15コマ30時間）
- 初等家庭 ・・・ 日本の小学校家庭科（8コマ15時間）
- 体育・スポーツ文化論 I ・・・ 体育・スポーツの本質（15コマ30時間）

※ 2025年4月1日現在の授業科目であり、変更の可能性があります。

※ その他の学校教育学部開設授業科目についても、授業担当教員の許可を得て、履修することが可能であり、修了要件の修得単位に含むことができます。

- 3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
1. 教育現場体験研修
近隣小・中・高等学校での授業参観及び授業参加を行い、日本の教育現場、教育事情の体験研修を実施しています。
 2. 日本文化体験研修
留学生が日本文化に実際に触れ、体験できるよう日本文化体験研修を実施しています。
 3. 日本文化実習
地元加東市を中心に、日本の生活習慣を体験するフレンドシップファミリーとの交流行事や、茶道、華道体験を実施しています。



近隣の学校で教育実習体験



茶道体験

- 4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
学校教育学部開設授業科目について、授業担当教員の許可を得て履修し、日本人学部学生との共修が可能です。

<一例>

「外国人児童生徒のための日本語教育」

- (1) 外国人児童生徒の現状や、学校生活における困難についての理解を深める
- (2) 第二言語習得やバイリンガル教育の基礎知識を得る
- (3) 日本語や日本文化（特に学校文化）を相対的に捉える視点を養う

⑪ 指導体制

1) 指導教員

グローバル教育センター所属の大学教員が指導教員となり、留学生の関心に合致した個別指導を行います。

- 2) 学業面の個別指導
指導教員が一年間を通して履修指導や修了論文（レポート）指導を行います。
- 3) チューター制度
チューターは、留学生を一对一で支援する日本人の学生ことで、専門分野の学習や日常生活での助言を行います。また良き相談相手、よき友人として留学生活をサポートします。
- 4) 相談体制
国際交流会館の外国人留学生相談室で国際交流会館相談主事が留学生からの相談に応じます。

■宿舎

大学キャンパス内の国際交流会館には外国人留学生専用の単身室が設けられています。



国際交流会館



単身室

■修了生へのフォローアップ

本学を修了後にはメール等により連絡を取り、進路の確認などを随時行っています。また、本学の大学院への進学等についての相談等を行っています。

■問合せ先

<担当部署>

兵庫教育大学教育研究部学生支援課国際交流チーム

住所 〒673-1494

兵庫県加東市下久米942-1

TEL +81-795-44-2043（直通）

FAX +81-795-44-2049

E-mail office-kokusai-t@ml.hyogo-u.ac.jp

<ウェブサイト>

兵庫教育大学 : <https://www.hyogo-u.ac.jp/>



学内外での交流を通して、実践的な日本語力を身につけ、日本文化・地域文化について幅広く学びます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

鳥取大学は、地域学部、医学部、工学部、農学部で構成されています。「知と実践の融合」を基本理念として、教育、研究及び社会貢献に取り組み、地域に根差し国際的に飛躍する大学として、多方面にわたって精力的な活動を行い、地域と世界の発展に寄与しています。また、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」（2012年～2016年）に採択された実績があり、グローバル人材の育成に力を入れています。

全ての日本語授業には、常に数名の日本人学生がボランティア参加しています。また、留学生と日本人学生による国際交流チーム（交流の場の企画・運営を行う）もあり、日本人学生との交流の機会が多くあります。

* 学生数・教員数（2025年5月1日現在）

学部学生数：5,248名
大学院生数：1,060名
教員数：793名

② 国際交流の実績

学術交流協定校・機関数：103（34の国・地域）

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数 160人、日研生 4人
2024年：留学生数 167人、日研生 4人
2023年：留学生数 183人、日研生 5人

④ 地域の特色

鳥取は、自然が豊かで静かな所で、勉学に取り組むのにとてもよい環境です。海や山があり、新鮮な食材（野菜・魚・肉）も豊富で、物価が安いので生活しやすい地域です。地元の人は皆、親切で温かいので、地域での交流の場にも参加しやすいです。また、大阪、京都などの有名な大都市には、電車やバスで3時間程度で行けます。



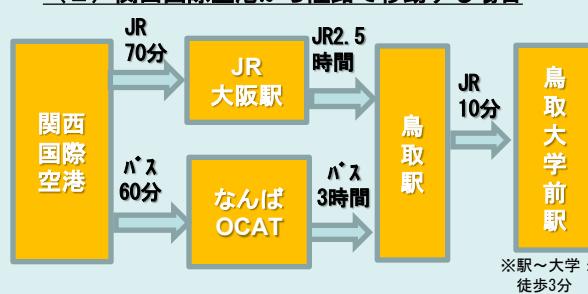
鳥取大学周辺へのアクセス方法

（※来日時に大学周辺の駅や空港からの出迎えサポートがあります）

（1）東京から飛行機で到着する場合



（2）関西国際空港から陸路で移動する場合



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

科目選択の自由度が高く、研修生の希望により、「日本語」に重点を置いて学ぶことも「日本文化」に重点を置いて学ぶこともできます。地域の行事に参加できる機会が多く、地域社会をより深く理解することができます。

③ 受入定員

全体で5名（大使館推薦3～4名、大学推薦1～2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学する者
- ・積極的に日本の文化・社会を理解し、自らの文化を発信しようとする姿勢を持つ者

⑤ 達成目標

- ・実践的な日本語力を習得すること
- ・興味のあるテーマについて、研究計画を進めその成果を発信できるようになること

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月上旬～2027年9月下旬
(2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日（2025年は9月24日～26日）

10月 開講式

新規留学生オリエンテーション
秋学期開始



1月 修了課題テーマ決定

2月 秋学期終了

4月 春学期開始

8月 修了発表会、修了課題の提出
春学期修了

9月 閉講式

9月下旬：帰国（2025年は9月18日～22日）

年間を通して、小・中・高校での交流会、地域の国際交流団体や学内の国際交流サークルのイベントが随時あります。

小学校での交流会



高校での交流会



地域交流イベント



⑨ コースの修了要件

⑩ 2) に記載の開設科目から合計14科目以上を履修し、かつ修了研究として日本語・日本文化研修留学生修了課題のレポートを完成させた学生に対し、修了証を授与します。

なお、希望する学生には、全学共通科目及び学部専門科目について単位を付与しますので、在籍大学との単位互換が可能です。単位が付与されない科目については成績証明書を発行します。



⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特色

全学共通科目や学部専門科目、国際交流センターで開設する科目の中から、研修生の興味関心に合わせて自由に科目を選択することができます。

2) 研修・コース開設科目

＜全学共通科目＞

・日本語実践I、II

大学生活で必要となるアカデミックスキルを、実践を通して身につけます。

・日本語の表現技法I、II

学習者同士で話し合いながら、伝えたいことを口頭や文章でより適切に表現する方法を学びます。

・日本文化事情I、II

・日本社会事情I、II

幅広い観点からの講義や、自分たちで設定したテーマについて調査を行うことによって、日本の事情を深く理解することができます。

＜目的別日本語コース＞

・レポート演習I、II

様々なテーマについて、自分の意見を口頭や文章で発表します。後半は各自のテーマで研究を進め、修了発表を行い、研究レポートを日本語で作成します。

・ケースで学ぶ異文化コミュニケーションI、II

異文化接触の事例を題材としてケース型教材を用いて、異文化理解と日本語コミュニケーション力の向上を目指します。

＜総合日本語コース＞

プレースメントテストでレベルを判断し、それぞれのレベルに合わせて、総合的な日本語能力を身につけます。

＜学部専門科目＞

指導教員と相談し、地域学部の授業の中から、学生に合ったものを選択します。

※上記のうち、レポート演習I、IIは必須科目です。修了研究のレポートについて学びます。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等に参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・日本文化事情I、II（前述2）の全学共通科目
- ・日本社会事情I、II（前述2）の全学共通科目

いずれも、講義・ディスカッションと、見学や交流を有機的に結びつけて授業を行います。

地域の餅つき



スキー研修



4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語授業の全てに、日本人学生がサポート参加しています。日本語・日本事情科目以外の全学共通科目と学部専門科目は、全て共修です。全学共通科目

「グローバルイシャー」・「世界の中の日本」・「異文化コミュニケーション」では、地球規模の課題や、世界の中で日本がどのような位置・役割にあるか、異文化理解の方法などを、日本人学生と共に英語で学びます。

⑪ 指導体制

学生の興味のある分野に合わせて、地域学部の教員が指導教員になります。また、国際交流センターでも研修生それぞれに担当教員がつき、必要に応じて生活・教育支援を行います。

■宿 舎

名 称：鳥取大学国際交流会館

所在地：〒680-0947 鳥取市湖山町西4-110

電 話：0857-28-4808

ホーメページ：

<https://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja/Students-housing-dormitory>

部屋数：1人部屋50室、2人部屋6室、3人部屋3室

居室設備：ベッド、机、椅子、書棚、タンス、シューズボックス、冷蔵庫、電気スタンド、電気ポット、エアコン、煙探知機、Wi-Fi、懐中電灯、トイレ

共同設備：キッチン、シャワー室、洗濯室、ラウンジ、和室があります。

近隣環境：コンビニエンスストア、スーパーマーケットまで徒歩15分



■修了生へのフォローアップ

修了後は、メールやSNSなどを活用し、その後のキャリアパス（進学・就職）について、相談に応じます。



■問合せ先

<担当部署>

鳥取大学学生部国際交流課

住所：〒680-8550

鳥取市湖山町南4丁目101

TEL : +81-857-31-5056 (直通)

FAX : +81-857-31-6065

E-mail : kokuko-gaku@ml.adm.tottori-u.ac.jp

鳥取大学地域学部教務係

住所：〒680-8551

鳥取市湖山町南4丁目101

TEL : +81-857-31-5077 (直通)

FAX : +81-857-31-5076

E-mail : reg-kyoumu@ml.adm.tottori-u.ac.jp

<ウェブサイト>

鳥取大学国際交流ホームページ

<https://www.ciatu.tottori-u.ac.jp/ja>

鳥取大学ホームページ

<http://www.tottori-u.ac.jp/>



島根大学 (島根県)



古より島根に根づく豊かな文化、四季折々の行事を通じ日本が学べます

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

島根大学は、法文学部、教育学部、人間科学部、医学部、総合理工学部、生物資源科学部、材料エネルギー学部から構成される中規模総合大学です（2025年5月1日現在 教員数747名、学生数6194名）。

温かく人情豊かな雰囲気の中で行われる少人数教育が大学の特色の一つで、教員からは授業内外で、きめ細かい指導を受けることができます。そして、世界各国からの留学生や日本人学生と、活発な交流が行えます。

② 國際交流の実績（2025年5月1日現在）

27カ国95大学・機関と交流協定を結び、学生交流及び研究者交流を行っています。

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数261人、日研生4人

2024年：留学生数246人、日研生3人

2023年：留学生数247人、日研生3人

④ 地域の特色

松江市は、宍道湖、日本海、中国山地に囲まれた自然豊かな美しい地方都市であり、国際文化観光都市にも指定されています。国宝・松江城を中心とした城下町には、古くから茶道や和菓子の文化が栄えました。市内には神社や仏閣、史跡、温泉、代々続く老舗、各種文化施設など、楽しみながら勉強できるたくさんの場所が数多くあります。

特に都市圏と比べ、在住する外国人が少ないことも、留学生が島根で学ぶ利点となるでしょう。そのため地域の人々との交流の機会も多く、日本語、日本文化を学びたい人、学内外で日本人と積極的に交流したい人にとっては絶好の場所です。治安もよく、冬には時々雪が降りますが、年間を通して気候は穏やかで住みやすいといえます。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

本学の日本語・日本文化研修プログラムでは、下のa)、b)の2つのコースを用意しています。研修生はいずれか1つを選び、それぞれの必修単位を履修してプログラムを修了することが求められます。

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

少人数で行う必須の日本語・日本文化研修生向けの授業により、受講生の日本語レベルやニーズに応じて柔軟に指導内容を検討し、きめ細かい指導を行います。

③ 受入定員

6名（大使館推薦3名、大学推薦3名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2レベル程度以上の日本語能力があること。
- ・勉学を最優先として全力で取り組み、修了論文を書き上げる強い意思とやり遂げる努力ができること。
- ・人間性に優れ、学内外の日本人、留学生と良好な関係を築ける力、諸活動に参加する積極性、コミュニケーション能力、協調性もあること。
- ・日研生としての自覚と、日本と母国との架け橋人材となる意志を持つ人物であること。

⑤ 達成目標

- 1) 日本語能力試験N1またはN2に合格できるレベルの日本語力を身につけること（プログラム中の受験を推奨、支援します）。
- 2) 自分自身の研究テーマを設定し、研究内容についてディスカッションでき、実現可能な計画を立てて研究を進め、最終的に修了論文を書き上げること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬

～2027年8月下旬

（在籍期間：2026年10月1日

～2027年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月



⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬：渡日（例年は9月下旬）
- 10月：オリエンテーション
松江祭鑿行列、松江水燈路 見学
- 11月：松江大茶会、八重垣神社 見学
- 12月：茶道体験、生け花体験
- 1月：正月料理実習
- 2月：着物体験
- 4月：お花見会
- 5月：田植え体験、螢狩り
- 6月：月照寺 宍道湖しじみ漁見学
- 7月：由志園（日本庭園）見学
- 8月：水郷祭（湖上花火大会）、修了式
- 8月下旬：帰国（例年は8月中旬～下旬）

⑨ コースの修了要件

- 各コース、必須授業（⑩表中の○）を含む、22単位以上を履修すること。
- 修了者に対し、修了証明書、成績証明書を発行する。



【日研生による手作りの手すき和紙（右）を使った修了証書】

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

少人数で行うため、教員との関係が深く受講生のレベルやニーズに応じて柔軟に指導内容を検討し、きめ細かい指導を行います。地域の豊富な文化的資源、自然を活用する授業を行います。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（単位数は右表に記載）

右の表の○印が各コースの必須科目。
※は両コースに共通の必須科目。

日本語総合A・・日本語論、日本文化に関する多様な文章（エッセー、新聞記事、講演録など）を目的に応じて読む。

日本語総合B・・日本の歴史を通史的に学び、各時代の社会的、文化的背景について理解し各時代の主要な文学作品を通じて日本語の変遷も知る。

日本語総合C（特別演習）・・地域に密着した伝統文化や神話、芸能、祭事、歴史的文化財などに関連する資料を生教材として、日本語および日本文化を学ぶ。

日本語総合D（特別研究）・・各自がテーマを設定して個人研究を行い、ゼミ形式で指導を受け、論文の書き方の基礎を学び、成果を発表する。

II) 選択科目（単位数は右表記載）

右の表の△印が各コースの選択科目。

日本語A・・作文クラス。論理的な文章を書くための表現、語彙を増やしながら、文章の構成や展開パターンを学ぶ。

日本語B・・読解クラス。語彙力、文法力を高めながら、速読や精読を通じて目的に応じた読み方ができるよう訓練を行う。

日本語C・・聴解、口頭表現クラス。発表のための調査、考察のスキルを養う。生の情報に接し、日本の社会に対する理解や知識も深める。

日本語D・・語彙、文法クラス。トピック別の重要語彙やコロケーションを集中的に学ぶ。また、学習者が誤りやすい文法や表現を復習しながら、正確に使えるようになるまで文法力を磨く。

| 授業名 | 時間数 【単位数】 | | ○必須 △選択 | |
|--------|------------------------------------|-------------------|------------|-----------------|
| | 後期 <10月～ 3月> | 前期 <4月～ 9月> | 日本語 コース | 日本 文化 コース |
| 必 | 日本語総合A | 30【1】 | 30【1】 | ○ ○ |
| | 日本語総合B | 30【1】 | 30【1】 | ○ ○ |
| | 日本語総合C | 30【1】 | — | ○ ○ |
| | 日本語総合D | — | 60【2】 | ○ ○ |
| 選 択 | 日本語A | 30【1】 | 30【1】 | ○ △ |
| | 日本語B | 30【1】 | 30【1】 | ○ △ |
| | 日本語C | 30【1】 | 30【1】 | ○ △ |
| | 日本語D | 30【1】 | 30【1】 | ○ △ |
| | 日本事情A | 30【2】 | 30【2】 | △ ○ |
| | 日本事情B | 30【2】 | 30【2】 | △ △ |
| | 異文化理解 入門A/B | 30【2】 | 30【2】 | △ ○ |
| | その他 日本語・日本文 化に係る専門に 応じた科目 | 各30 | 各30 | △ ○ |

コース修了要件：必須授業を含む22単位（660時間）以上の履修。※は全員必須科目。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

日本事情A・・日常生活の中に見る日本の文化について知識を深め、その背景にある日本人の考え方や、価値観について理解を深める。

例) 八重垣神社、月照寺 見学

日本事情B・・自然科学の視点から日本、島根県に対する理解を深めると同時に、伝統文化体験を行う。

例) 座禅体験、茶道体験、日本庭園見学

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

異文化理解入門A, B・・・異文化理解に関する様々なトピックにもとづいて小グループでディスカッションを行ったり、調査やプロジェクトワーク、発表を行ったりする。

① 指導体制

日本語・日本事情担当教員ほか、学生の専門に応じて指導教員が、学業面の指導、生活面の支援を行います。



【出雲大社参拝見学】



【田植え体験】

■宿舎

大学から徒歩10分圏内の場所に、留学生用宿舎「国際交流会館」および「学生寮」があります（料金や設備の詳細は右URLを参照）
<https://kokusai.shimane-u.ac.jp/kaiairyugakusei/japanese/#housing>

国際交流会館には、優しく時に厳しい「お母さん」のような管理人が勤務し、日本人チユーターも住んでいます。研修生は、各国からの留学生との1年間の生活を通して友情を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力も身につけることができます。一方、学生寮には日本人学生が多く住んでおり、独立した生活を楽しみながら日本人学生の友達を作ることができます。ただし、近年は留学生数が増加していることから、今後は必ずしも希望者全員が宿舎や寮に入れるという状況ではありません。規則にしたがって入居の優先順位を決めた結果、日研生が入居できない可能性もあります。その場合は、近隣の民間アパートを斡旋します。なお、宿舎費を来日前に求める事はありません。



【国際交流会館】



【学生寮】

■修了生へのフォローアップ

日研生の同窓会グループを通じて近況ニュースを流し、在学生と修了生が情報を交換したり共有したりできるようにしています。

修了後のキャリアパスの例：

- ・JETプログラムの国際交流員として県庁に勤務
- ・修了生母国の日本大使館に勤務
- ・母国にある日系企業に就職
- ・外国技能実習生の管理団体(東京)に就職
- ・島根大学大学院に進学（※近年増加中。留学中に進学したい大学院研究科を見つけ、帰国後半年程度準備をしたのち、再入学するケースが増えていきます。）



【伝統芸能「神楽」を学ぶ】

■問合せ先

＜担当部署＞

島根大学国際課留学生交流担当
TEL : +81-(0)852-32-6106 (直通)
FAX : +81-(0)852-32-6481
Email : ied-ryugaku@office.shimane-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

島根大学 : <http://www.shimane-u.ac.jp>



岡山大学 (岡山県)

日本語能力の向上及び日本の文化、社会、経済、教育などに対する理解を深める

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

岡山大学は1949年に設立された国立大学ですが、その前身は1922年設立の岡山医科大学、1900年設立の第六高等学校などで、長い伝統があります。設立後発展を重ね、2021年4月から工学部と環境理工学部を再編統合して新しく生まれ変わった工学部をはじめとし、現在では文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、農学部の10学部、1プログラム。2023年4月大学院自然科学研究科と大学院環境生命科学研究科を再編・統合しスタートし、学位プログラム制を導入した大学院環境生命自然科学研究科をはじめとし、教育学研究科、社会文化科学研究科、保健学研究科、医歯薬学総合研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、法務研究科の7大学院、4研究所を擁する全国で有数の総合大学です。

国際交流に力を入れているのが本学の特色のひとつです。本学に在籍している外国人留学生に対しての日本語教育は、教育推進機構が担当し、受け入れや奨学金のサポートは学務部国際教育推進課、生活面のサポートや履修指導は受け入れ部局が行っています。

2) 学生数 (2025年5月1日現在)

学部学生：10,246名
大学院生：3,279名



② 国際交流の実績 (2025年5月)

大学間交流協定数：189件
部局間交流協定数：210件

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

(各年5月1日現在)

| | |
|-----------------|------------------|
| 2025年：留学生数：937人 | 日本語・日本文化研修留学生：2人 |
| 2024年：留学生数：966人 | 日本語・日本文化研修留学生：5人 |
| 2023年：留学生数：911人 | 日本語・日本文化研修留学生：2人 |

④ 地域の特色

岡山県は日本の西部にある中国地方に位置し、瀬戸内海に面しています。水島工業地帯を抱え工業が盛んであるとともに、農産物や水産物が豊かな県です。岡山は温暖な気候で、地震や台風などの自然災害もほとんどなく、日本で最も安心・安全で住みやすい地域と言われています。

岡山大学のある岡山市は岡山県の県庁所在地で、この地方の政治、経済、教育、文化の中心地のひとつです。岡山市的人口は約72万人です。

岡山市へは交通が大変便利です。新幹線を利用すれば、東京から3時間30分、新大阪から45分で岡山市に着きます

■研修・コースの概要

本コースは次の3種類の授業からなる。

- ① さまざまなレベルやトピックを扱う日本語クラス
- ② 日本の文化、経済、教育に関する授業
- ③ 文学部、経済学部、教育学部の各学部の日本人学生対象の講義

① 研修・コースの目的

- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日研生は、文学部、教育学部、経済学部、のいずれかに所属し、指導教員の指導を受けます。日本語の能力が特に高い学生は、日本人学生と一緒に受講する教養共通教育科目や所属学部で専門科目の授業に出席することができます。また、各自の研究テーマに合った演習にも参加できます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本語能力試験のN2レベルの日本語（語彙6,000語、基本漢字1,000字程度）を習得している者。

⑤ 達成目標

アカデミックな日本語能力を養い、日本に関する専門的な知識を深めること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月1日～2027年8月下旬
(2026年10月1日～2027年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間：2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

第3-4学期

| | |
|--------------|------|
| 9月末頃 | 渡日 |
| 新入生オリエンテーション | |
| 10月 | 授業開始 |
| 11月 | 大学祭 |
| 2月 | 授業終了 |

第1-2学期

| | |
|------|-----------------|
| 4月 | 授業開始 |
| 8月 | 授業終了 |
| 8月中旬 | 修了レポート提出 修了式 |
| 8月下旬 | 帰国 |

⑨ コースの修了要件

各学期、選択科目を6単位以上取り、修了レポートを作成すること。修了時に修了証書を授与します。また、必要がある場合は、成績証明書も発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

授業は原則として、第1・第2・第3・第4学期 各8週間開講されます（うち1週間は期末試験期間）。学生は指導教員と相談の上、自分のレベルや興味に合った科目を履修できます。必修科目は設けていません。

2) 研修・コース開設科目

選択科目

プレースメントテストの結果に基づいて、日本語のクラスを決めます。日本語5は日本語能力試験N2程度、日本語6は日本語能力試験N1程度を目指す学生のためのコースです。応用日本語、あるいは文学部で開講されている上級コースは、既に日本語能力試験N1レベルに達している学生を対象としています。

◇中／上級コース (教育推進機構外国語教育部門日本語教育系)

| 授業科目名 | 概要 | 時間/ 学期 | 単位/ 学期 |
|--|--------------------------|-----------|-----------|
| 日本語5 (第1-4学期) | 中級後期の総合的なクラス | 60 | 4 |
| 多読で学ぶ 日本語2 (第1-4学期) | 多量の日本語を読むクラス | 15 | 1 |
| 映像で学ぶ 日本語2 (第1-4学期) | ドラマや映画を通して日本語を学ぶクラス | 15 | 1 |
| 中級漢字・ 語彙 (第1-4学期) | 中級の漢字・語彙を学ぶクラス | 15 | 1 |
| 中級文法2 (第1-4学期) | 中級後半の文法を学ぶクラス | 15 | 1 |
| 日本を知ろう (第1-2学期) | 日本の文化や社会について学ぶクラス | 15 | 1 |
| 岡山を知ろう (第3-4学期) | 岡山について調べながら日本語を学ぶクラス | 15 | 1 |
| メディア・ リテラシー2 (第3-4学期) | 情報を批判的に読み取るクラス | 15 | 1 |
| 日本語6 (第1-4学期) | 上級前期の総合的なクラス | 60 | 4 |
| 応用日本語 (書く・読む・ 聞く・話す) (第1-4学期) | 上級の(書く・読む・聞く・話す)力を高めるクラス | 各15 | 各1 |

◇上級コース（文学部・経済学部）

| 授業科目名 | 概要 | 時間/ 学期 | 単位/ 学期 |
|--|---------------------------|---------------------|-----------|
| 日本語 1a/b (第1-4学期) | 日本語の小説を読むクラス | 15 | 1 |
| 日本語 2a/b (第2, 4学期) | 文法とリスニングを学ぶクラス | 15 | 1 |
| 日本文化学 a/b (第1, 3学期) | 日本文化に関するテーマについて討論するクラス | 15 | 1 |
| 日本語超級 (第4学期) | 日本語を専門的に研究しながら、学術的な日本語を学ぶ | 15 | 1 |
| 日本経済 事情IA/ IB/IIA/IIIB (第1-4学期) | 日本の経済・社会について学ぶクラス | 計15週開講で 30時間・2単位 | |

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

| 授業科目名 | 概要 | 時間/ 学期 | 単位/ 学期 |
|------------------------------|--|-----------|-----------|
| SDGsからみ る日本事情 (第1-4学期) | 教育や食、地域など学期ごとのテーマに沿って、日本文化を体験しながら学ぶクラス | 15 | 1 |

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語の能力が特に高い学生は、上記科目以外に、日本人学生と一緒に受講する共通教育科目や所属学部で専門科目の受講が可能です。

⑪ 指導体制

日本語・日本文化研修留学生を受け入れる学部において指導教員を決め、学業面の指導、生活面の支援を行います。

コーディネーター

内丸 裕子（教育推進機構）

堤 良一（文学部）

宮本 勇一（教育学部）

廣田 陽子（経済学部）



■宿 舎

日本語・日本文化研修留学生は、岡山大学外国人留学生・研究員宿泊施設に優先して入居することができます。

宿舎費は次のとおりです。宿舎費の他に、入寮費30,000円（返金不可）、光熱水道料金が必要です。宿舎費等の支払いは入居後となります。

○宿舎費（单身用）

- ・桑の木留学生宿舎：月額 14,000円～16,000円
- ・国際学生シェアハウス：月額 23,000円
- ・国際交流会館：月額 27,000円
- ・福居留学生宿舎：月額 28,000円

※宿泊費等は改定する場合があります。

※宿泊施設は自分の居室も含め、全館禁煙です。

※配偶者が岡山県在住の場合は宿舎への入居はできません。

※希望する宿舎を選ぶことはできません。

○宿舎設備・備品：

- 机、椅子、ベッド、ユニットバス、トイレ、ミニキッチン、冷蔵庫、冷暖房機

○宿舎周辺の生活情報・通学時間：

宿舎はキャンパス内に位置し、講義棟まで徒歩10～15分程度。

宿舎横にスーパー徒歩圏内にショッピングモールがあります。

桑の木留学生宿舎



国際学生シェアハウス



■修了生へのフォローアップ

2011年に岡山大学国際同窓会が設立され、毎年総会が開催されています。今後、更に海外での活動を充実させ、日研生を含め、本学修了生へのフォローアップに務めていく予定です。

また、日研生修了生のうち、より深く専門分野を本学で学びたい学生が本学に戻ってくるケースも増えています。

国際同窓会HP

<https://alumni.ouic.okayama-u.ac.jp/>



■問合せ先

＜担当部署＞

岡山大学学務部国際教育推進課

住所：〒700-8530

岡山県岡山市北区津島中2-1-1

TEL：+81-(0)86-251-7051（直通）

FAX：+81-(0)86-252-5022

E-mail：dde7046@adm.okayama-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

岡山大学ホームページ

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学国際交流・留学支援

ホームページ

<https://intl.okayama-u.ac.jp/>



広島大学

(広島県)

瀬戸内の文化・教育の拠点で平和を希求する

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

1949年広島文理科大学、広島高等師範学校などを包括して設置された。西日本の教育系大学の代表格としての伝統を持ち、国立大学としては、全国有数の規模と学生数を誇る。12の学部と5の大学院があり、情報化、国際化、生涯学習及び国際協力へのニーズに対応した教育・研究が行われている。学部・研究科（大学院）以外にも、高等教育研究開発センター、平和センター、森戸国際高等教育学院（以下、森戸学院）、原爆放射線医科学研究所などのユニークなセンター・研究所群を持つ。

さらに、教育学部は日本語教育系コースを持ち、日本語教師や日本語教育学の専門家を目指す日本人学生、留学生が勉学に励んでいる。市街地を離れた広大な東広島キャンパスは、自然に恵まれ、静かに落ち着いて勉学に打ち込める環境にある。

2) 教員・学生数等 [2025.5.1現在]

| | |
|------|---------|
| 教員 | 1,641名 |
| 学部学生 | 10,730名 |
| 大学院生 | 4,766名 |

② 国際交流の実績 [2025.5.1現在]

大学間交流協定数 434協定 56カ国 391機関
留学生在籍数 1,919名 98カ国(地域)

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

| | 留学生数 | 日研生数 |
|-------|--------|------|
| 2025年 | 1,919名 | 4名 |
| 2024年 | 1,831名 | 4名 |
| 2023年 | 1,726名 | 2名 |



④ 地域の特色

広島市、東広島市が位置する県南部は、瀬戸内海に面し、気候は温暖で、四季に恵まれ、海苔やカキの養殖が盛んである。また、北部の中国山地は神楽などの伝統芸能が盛んで、「たたら（現在の製鉄所）」の遺跡も多い。

広島市は世界最初の被爆都市であるが、政令指定都市となった現在は、国際平和都市として市民グループの活動も活発で、平和や国際協力に関する留学生との国際交流活動に参加できる機会にも恵まれている。

東広島市は、広島市の東約30キロの盆地の中にある、古くから酒どころとして有名である。現在は、広島大学、他の私立大学また国や多くの企業の研究施設も移転ってきており、研究学園都市として急速に発展している。また、半導体、電気・電子機器等製造業の進出が近年盛んで、人口も急速に増えている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、必修の「日本語・日本文化特別研究」、指導教員のもとで行われる「課題研究」、およびそのレポートの作成、そして全学向けの「日本語・日本事情科目」から選択して履修する授業を3つの柱としている。

必修科目である「日本語・日本文化特別研究」では、日本語と日本の文化、社会、歴史について知識を広めるとともに、広島県内および中国地方、瀬戸内海周辺で実施する多くの見学を通じて、直接日本文化に接しながら日本の歴史、文化、風俗および平和の尊さについて学ぶ。

全学の留学生に開講されている「日本語・日本事情科目」の中上級レベルであるレベル4、上級レベルであるレベル5のクラスから、自身の日本語能力と興味・関心に応じて授業を選択する。さらに、森戸で開講されている、より専門的な言語学、音声学、日本語教育学に関する授業も受講できる。

「課題研究」では、日本語学、日本語教育学、日本文化学などの専門家である指導教員の個別指導のもと、日本語・日本文化の分野で専門水準の研究を行う。また、自身の興味、専門に応じ、指導教員と相談したうえで、総合科学部、文学部、教育学部、経済学部等で開講されている日本人学生向けの授業を聴講することも可能である。

研修生には学生センターがつき、居住・大学生活に関する支援をおこなっている。さらに、学内の様々な国際交流イベントにも参加する機会がある。

さらに、森戸学院には数多くの日本映画とアニメのDVDソフトが用意されており、これらを活用した授業が行われているだけでなく、授業の一環として視聴を奨励している。

また、森戸学院では、各留学生が指導教員の個別指導のもとに行なった「課題研究」をまとめ、毎年、研修レポート集として発行している。

③ 受入定員

20名（大使館推薦 16名、大学推薦 4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講できる者は、文部科学省の規定に基づく大使館推薦による者の他、大学間協定、ないし部局間協定に基づく大学推薦の学生とし、以下の要件を満たす者とする。

- 1) 日本語能力：日本語能力試験N2以上の高い日本語能力を有する者、あるいは有すると見なせる者。
- 2) 日本研究学習歴／専攻：日本語を2年以上学び、日本語・日本文化を主専攻とする者。大学1年生は対象としない。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化の分野で1年間、指導教員の個別指導のもと卒業論文の水準の「課題研究」を行い、研修修了時に日本語レポートとしてまとめるとともに、研修成果発表会で発表を行う。これにより、テーマについての基礎的な知識、テーマ設定、研究構想等の基本的な研究遂行能力、原稿作成、口頭発表に必要な日本語能力を獲得する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年9月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 9月下旬 | 渡日（2025年は9月30日） |
| 10月上旬 | 開講式、オリエンテーション |
| 3月下旬 | 瀬戸内海しまなみ研修旅行 (愛媛県松山市1泊2日) |
| 4月下旬 | 研修レポート構想発表 |
| 7月中旬 | 研修レポート中間発表 |
| 7月下旬 | 古事記・風土記の旅 (島根県松江市・出雲市1泊2日) |
| 9月上旬 | 修了式、研修成果発表会 |
| 9月下旬 | 帰国 |

⑨ コースの修了要件

1) 必須科目

- ・「日本語・日本文化特別研究I・II」
前後期それぞれ週2コマ(4単位)
- ・「研修レポート（課題研究）」の提出
構想発表、中間発表、研修成果発表会への参加を含む。

2) 選択科目

森戸学院において、全学向けに開設されている日本語科目から各自のレベルに応じ（レベル5の者はレベル5の科目から、レベル4の者はレベル4とレベル5の科目から）、前後期それぞれ3コマ（6単位）以上を選択、履修。

3) 修了証書

修了式において「修了証書」が授与される。

4) 成績証明書

求めに応じて成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目である「日本語・日本文化特別研究I・II」で行われる森戸学院、学内の教員による特別講義において、日本語・日本文化・日本事情に関する幅広い知識を身につけることができる。また、同科目で実施される見学により、地元、広島の産業、文化、戦国時代から日清、日露、第二次世界大戦を経て現在に至る歴史についての知識・理解を深め、さらには、しまなみ海道から愛媛県に及ぶ研修旅行、島根県の松江・出雲への研修旅行によって、広島を囲む瀬戸内圏、古事記・風土記から現代に至る歴史、文化的基層についての知識・理解を深めることで、広島から「日本」を知り、理解することを目指す。

また、森戸学院で提供される多くの日本語科目から、自分に合った授業を選択・履修することで、日本語能力を磨き、研究や仕事で使える日本語を身につける。

これらの必修科目、選択科目を履修することで身につける知識、能力をベースに、指導教員の個別指導のもと、大学院への進学、日本、日本語に関連する職業に就くことを見すえ、卒業論文水準の「課題研究」を行う。

2) 研修・コース開設科目

- I) 必須科目（コマ数、時間数）・内容
「日本語・日本文化特別研究I・II」
(前後期 各週2コマ、120時間) …特別講義、見学
「研修レポート（課題研究）」
指導教員による指導、レポートの提出

II) 選択科目（コマ数、時間数）・内容

日本語・日本事情

レベル5（各週2コマ 各32時間）

1・3ターム

「日本語上級映像A/B」…映像作品で日本語を学ぶ

「日本語上級語彙A/B」…語彙

「ビジネス日本語A/B」…ビジネス日本語

2・4ターム

「日本語上級分析A/B」…作文

「日本語上級聴解A/B」…聴解

「日本語上級読解A/B」…読解

「論文作成法A/B」…論文の書き方を学ぶ

レベル4（各週2コマ 各32時間）

1・2ターム

「日本語 中上級 A-1/2」…文法、読解

「日本語 中上級 B-1/2」…語彙、聴解

3・4ターム

「日本語 中上級 C-1/2」…文法、読解

「日本語 中上級 D-1/2」…語彙、聴解

その他

1・2ターム

言語教育学講義B

社会言語科学講義B

3・4ターム

言語学講義

音声学・音韻論講義

言語教育学講義A

社会言語科学講義A

言語文化教育研究法



3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・「日本語・日本文化特別研究I・II」

広島見学（広島城・平和公園）、宮島見学、マツダ（自動車工場）見学、福山見学、尾道見学、呉見学

・瀬戸内しまなみ研修旅行（愛媛県松山市1泊2日）

・古事記・風土記の旅（島根県松江市、出雲市1泊2日）

・広島ホームステイ協会による、ホストファミリーの紹介、交流イベント

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

この研修プログラムに日本人学生との共修授業は設けていないが、日本人学部生を対象として開講される全学教養科目や、文学部、教育学部などの専門科目の受講を勧め、支援している。



⑪ 指導体制

1) プログラム実施委員 所属:森戸国際高等教育学院
石原淳也 准教授（言語学・日本語音声学・音韻論）

2) 指導体制

森戸学院に所属する教員および一部の教育学部、文学部、総合科学部教員が指導教員として本プログラムに参加し、学生の学業、生活両面にわたり指導・助言を行っている。

3) 助言・カウンセリング

留学生に対する助言・カウンセリング等は、以下の場所で協力して行われている。

・保健管理センター

・所属学部の留学生専門教育教員（教育学部配置学生のみ）

■宿 舎

広島大学の留学生数の増加にともない、全ての者が広島大学内の留学生用宿舎、東広島市内の公的宿舎へ入居できるとは限らない。やむを得ず民間アパートに入居しなければならない場合もある。

・過去3年間の日研生の宿舎入居状況（各年度10月現在）

| | 国際交流会館 | 民間アパート | 計 |
|--------|--------|--------|---|
| 2025年度 | 4 | 0 | 4 |
| 2024年度 | 4 | 0 | 4 |
| 2023年度 | 2 | 0 | 2 |

・広島大学の留学生用宿舎

「国際交流会館」：広さ13.3m²、家賃5,900円/月、共通経費2,500円/月、森戸学院まで徒歩20分・自転車7分

「広島大学留学生用借上宿舎」：広さ15m²～17m²、家賃8,000～18,000円/月、敷金20,000円

・その他

「民間アパート」（平均的相場）：広さ15m²～17m²、家賃25,000円～45,000円／月、共益費1,000円～3,000円
敷金 家賃の1～3ヶ月分、礼金 家賃の約1ヶ月分、斡旋料 家賃の約1ヶ月分

奨学金支給までの生活費、宿舎入居のための資金として、10万円程度を用意しておくことが望ましい。



■修了生へのフォローアップ

・日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集を修了生本人と所属（出身）大学へ送付

・修了生のレポートPDFを森戸学院ホームページにリポジトリ登録し、閲覧可能

・修了した研修プログラムの記録を森戸学院ホームページに保存し、閲覧可能

・研修プログラムの最新の動向を知らせるため修了生をメーリングリストに登録

■問合せ先

＜担当部署＞

広島大学森戸国際高等教育学院

住所：〒739-8524 広島県東広島市鏡山

1丁目1番1号 広島大学教育棟K305

TEL：+81-82-424-6286（直通）

FAX：+81-82-424-6286

Email: morito-office@hiroshima-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

広島大学森戸国際高等教育学院

https://www.hiroshima-u.ac.jp/international_center





山口大学 (山口県)

歴史のある美しい街、山口へ留学してみませんか

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

山口大学は1815年、長州藩士・上田鳳陽によつて創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設された。

メイン・キャンパスは山口市（人口は188,012人（2025年9月1日現在））に位置している。山口市は自然環境に恵まれた落ちついた都市で、多くの歴史的名勝・文化的景観が残されている。

2) 教員・学生数等

・教員数：1,033名（2025年4月現在）

・学生数：学部生 8,541名
大学院生 1,448名
(2025年5月現在)

② 国際交流の実績

・大学間交流協定校数：113校
(2025年5月現在)

・学部間交流協定校数：3校
復旦大学
イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学
(2025年8月現在)

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数407人、日研生0人

2024年：留学生数407人、日研生0人

2023年：留学生数428人、日研生0人

④ 地域の特色

山口県は、本州の西の端にあり、山口大学吉田キャンパスのある山口市は「西の京」とも呼ばれ、歴史と文化の薫り漂う県庁所在地です。吉田キャンパス近くにある「湯田温泉」は、約800年の歴史と山陽路随一の規模を持つ温泉街で、一日2000tという豊かな湧出量を誇り、地元客や観光客に人気です。このほか、県内には優れた温泉地がたくさんあります。

また、広島県、福岡県の間に位置し、どちらの都市にも新幹線で約40分で行くことができます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

・主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

・コースには日本語能力の中級話者を対象にした日本語及び日本事情の授業科目が含まれる。

・スピーチング、リーディング、ライティング能力を伸ばしながら、日本語の基礎を学ぶ。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講する者は、日本国以外の大学学部（来日時点で主として第2学年次以上）に在籍する学生で、日本語・日本文化研修生として、以下の要件を満たす者とする。

（1）日本語能力

日本語能力試験のN2ないしそれ以上の級に合格している者、または同等の日本語能力を有する者。一般的な事柄について会話ができ、基本的な文章を読み書きできること。

（2）日本研究学習歴、専攻

・日本語・日本文化に関する分野を専攻する者

⑤ 達成目標

- ・日常的に使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
- ・日本社会、日本文化に関する研究に活用できる知識を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2026年10月1日～2027年9月30日

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日
オリエンテーション

11月：留学生交流会

9月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

本コースの必修科目（前期7科目、後期7科目）を全て履修し、各自の課題研究をまとめた論文を提出した者には、成績証明書を発行する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- ・コースには日本語能力の中級話者を対象にした日本語及び日本事情の授業科目が含まれる。
- ・スピーキング、リーディング、ライティング能力を伸ばしながら、日本語の基礎を学ぶ。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

【日本語演習A】（前期30時間／後期30時間）

演習形式、使用言語：日本語

単語や文法の知識を基に、特に「聞く」「話す」能力を育成し、日常生活におけるより一層のコミュニケーション能力の向上を目指す。また、学習内容のトピックに関連した簡単な新聞記事も読めるようになる。

【日本語演習B】（前期30時間／後期30時間）

演習形式、使用言語：日本語

表現文型・文法を学び、日本語の運用能力を高める。特に助詞が正しく使えるようになることをを目指す。また、その日のテーマに関連したディスカッションから書く練習へと発展させ、文章作成能力のレベルアップを図る。

【日本語演習C】（前期60時間／後期60時間）

演習形式、使用言語：日本語

いろいろなジャンルの新聞記事、エッセイ、小説などを読み、日本語の様々な文体に慣れる。楽しく読むことができ、かつ読めたという体験を持たせ、長文の速読速解能力の向上を目指す。

【日本事情】（前期30時間）

講義形式、使用言語：日本語

日本の文化、習慣、教育、政治、経済など日本についての基本的な事項を各種のメディア（新聞、雑誌、テレビ、インターネット等）から取り上げ、講義し、その日のテーマについてディスカッションを行う。

【異文化を学ぶ】（後期30時間）

講義形式、使用言語：日本語

日本文化に関する様々なテーマについて学習する（例：日本の漫画、アニメ、音楽、遊び、芸術、社会）。フィールドワーク作業、ビデオ教材等を含めることで、言葉では説明しにくいものを感覚的に理解出来るように配慮する。

II) 選択科目

さらなる勉学・研究のために、日本語の仕組み、日英語の違い、日本の音楽、日本の歴史、日本の工芸等の教育学部開講の授業に参加することができる。

留学生の日本語能力の向上の程度を勘案して、日本語のドリル及び日本文化に関する補講を行うことがある。

教育学部が開設する授業に加え、本学には共通教育科目として、すべての学部に在籍する留学生を対象にした日本語・日本事情関係の授業が開講されている。日本語能力テストの結果に応じてこれらの授業を履修することも可能である。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

特筆すべきものはなし

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

特筆すべきものはなし

⑪ 指導体制

- ・責任教員 猫田 和明
(学生国際交流ワーキング座長)
- ・学生の所属：教育学部
- ・指導教員：希望に合わせて専門分野の教員又は、国際交流に関わる教員が指導を担当する。

■宿 舎

原則として、山口大学の敷地内にある留学生用宿舎「国際交流会館」へ入居可能である。

※過去3年間の入居実績： 0名 (2025年)
0名 (2024年)
0名 (2023年)

※留学生用宿舎の詳細については以下のURLを参照

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/isc/candidates/dormitories/index.html>



■修了生へのフォローアップ

修了生へのフォローアップについては、研修期間の指導状況に合わせ、指導教員が行う。

■問合せ先

＜担当部署＞

- ・山口大学教育学部学務係
住所：〒753-8513
山口県山口市吉田1677-1
TEL：+81-83-933-5307
FAX：+81-83-933-5468
E-mail：info-g@yamaguchi-u.ac.jp

担当教員：猫田 和明
(教授・学生国際交流ワーキング座長)
E-mail：nekoda@yamaguchi-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞

山口大学ホームページ：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学留学生センターホームページ：
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/isc/>



香川大学

香川大学

(香川県)

地域に根差した学生中心の大学

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 概要

香川大学は1949年に設置されました。2003年10月にそれまでの香川大学と香川医科大学が統合され、新しい香川大学となりました。教育学部、法学部、経済学部、医学部、創造工学部および農学部の6つの学部を持つ総合大学です。修士課程は、創発科学研究科（教育学、法学、経済学、工学的分野を含む）、医学系研究科、農学研究科を、博士課程は、医学系研究科、創発科学研究科、連合農学研究科を、また、専門職学位課程は、教育学研究科、地域マネジメント研究科を有しています。

2) 学生数・教員数（2025年5月1日現在）

- ・学部学生数：5,635人
- ・大学院学生数：854人
- ・教員数：640人
- ・職員数：1,287人



② 国際交流の実績

2025年5月の時点で、59の大学や機関と大学間協定、39の大学や機関と部局間協定を締結して、世界中の大学と学術交流や学生交流を実施しています。加えて、7団体との連携協力協定も締結して、複数大学間での国際的な協力体制を築いています。

（香川大学概要2025-2026より）



3大学合同シンポジウム（タイ）



学生交流プログラム（インドネシア）

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数190人、日研生2人（10月時点）
2024年：留学生数208人、日研生1人
2023年：留学生数183人、日研生3人
(日研生出身国：韓国、タイ、キューバ、メキシコ、
ブラジル)

④ 地域の特色

香川県は、四国の北東部に位置します。瀬戸内海に面しており、四季を通じて降水量が少なく、温暖な気候です。

香川県で最も有名なのは、おそらくうどんですがオリーブやうちわなども有名です。

皆さんのが住む予定の高松市は、コンパクトシティと言われています。日本一長い商店街のなかにたくさんの商店があり、自転車で行くことができる範囲でなんでも揃います。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、日本文化、特に香川県に関する知識の習得、それらの知見を実践的に活用する能力の向上を目的としています。そのため、それに必要な日本語力の向上の機会も提供されます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦3名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・J L P T : N 2以上、または同等の日本語能力を有すること。
- ・国費留学生として、各種交流活動や本学の国際化のための活動に積極的に参加すること。

⑤ 達成目標

- ・N 1または同等以上の日本語能力を習得する。
- ・日系人材の受講者の場合は、N 3または同等以上の日本語能力を習得することを目指す。
- ・各種プレゼンテーションを含む、日本語の実践的能力を向上させる。
- ・香川県に関するトピックを自ら選定し、レポートとしてまとめることができる。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬～2027年8月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

※日程は年度により変わります。

9月 渡日

10月 新入留学生ガイダンス、開講式

11月 大学祭

12月 ホームビジット

1月 留学生のつどい

2月 ビジネスマナー講座

7月 日帰り島旅行

8月 修了式

8月下旬：帰国

他にも交流や学習のためのイベントが行われます。



学生によるプレゼンテーション



授業で学生交流

⑨ コースの修了要件

本コースの修了要件は、授業の履修（⑩参照）および最終レポートです。最終レポートは、日本（特に香川）や日本文化に関するテーマを選び、指導教員とよく相談しながら、論文の形に仕上げます。

これらの条件を満たした修了生には、修了証書を発行します。履修登録した個々の授業に関しては成績証明書が発行されます。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語の基礎能力を向上しつつ、本人のレベルや興味に応じた受講ができる。受講する科目の数等については指導するが、科目自体については自国の所属大学における専門ないし既習科目と関連する科目も受講可能であり、より深いレベルでの日本文化研修が可能となる。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

日本語 I c (15コマ、22.5時間)

・・・中上級レベルの作文

プロジェクトさぬき (8コマ・12時間)

・・・香川県の課題に関するプロジェクト

ワーク、日本人学生との共修

II) 選択科目

上記以外の日本語科目 (15コマ、22.5時間)

・・・中上級～超級の4技能（読む・書く・聞く・話す）

日本事情科目 (8コマ、12時間 または 15コマ、22.5時間) ・・・日本の文化・社会・歴史・国際貢献などについて学ぶ

必修科目・選択科目を合わせて各学期週7科目以上を受講する。取得単位数は履修科目による。
(1科目1単位または2単位)

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

基本的には、本学の場合はこの種の科目は学部における正規生が対象なので、本研修での参加は認められないが、授業以外に各種の地域交流を多数用意している。「⑧研修・年間スケジュール」を参照。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

上記2) I) の「プロジェクトさぬき」。
その他、選択した場合には日本語による共通科目や専門科目。

⑪ 指導体制

学術的な指導は、指導教員により行われます。インターナショナルオフィスの高水徹・塩井実香のいずれかが指導教員となります。

生活面での指導や支援は、インターナショナルオフィスが担当します。

また、学生によるサポート体制も整っており、サポートー、チューターがそれぞれ生活面と学習面で支援します。



海岸でのフィールドワーク



日研生が自分の国について説明

■宿舎 (2025年10月現在)

香川大学には、2つの留学生宿舎があります。入居については本コースの申請時にお尋ねください。

- ・花園寮 (室料 ¥22,500/月)
- ・留学生会館 (屋島) (室料 ¥ 8,000/月)

(ウェブサイト-香川大学留学生宿舎)

花園寮

https://www.Kagawa-u.ac.jp/files/5116/5655/9308/hanazono_nyukyobosyu.pdf

留学生会館 (屋島)

<https://www.Kagawa-u.ac.jp/files/9712/8270/9953/outline%20of%20house.pdf>

過去3年間の日研生の宿舎入居状況

- | | |
|-------------|----|
| ・2025年度：花園寮 | 2名 |
| ・2024年度：花園寮 | 1名 |
| ・2023年度：花園寮 | 3名 |



留学生会館 (屋島)

花園寮



宿舎での流しそうめん

■修了生へのフォローアップ

本コースは1年で帰国することを前提としていますが、さらに本学の大学院進学等のため、各部局に問い合わせることが可能です。

また、いくつかの国や地域に関しては、すでに帰国留学生ネットワークが形成されています。

その他、SNSを通した交流も行われておりますので、下記のFacebook等をご参照ください。



■問合せ先

<担当部署>

香川大学教育・学生支援部国際課

住所：〒760-8521

香川県高松市幸町1-1

TEL：+81-87-832-1149 (直通)

FAX：+81-87-832-1192

Email：ryugaku-h@kagawa-u.ac.jp

<ウェブサイト>

香川大学

<https://www.kagawa-u.ac.jp/>

香川大学インターナショナルオフィス

<https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>

日研生向けページ

https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/isc/study_in_kagawa/jss/

香川大学留学生センターFacebook

<https://www.facebook.com/KUISC>



高知大学 (高知県)

地域・国際社会に貢献しうる人材育成と学問・研究の充実・発展を推進

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

高知大学は、人文社会学部、教育学部、理工学部、医学部、農林海洋科学部及び地域協働学部の6つの学部と大学院総合人間自然科学研究科に人文社会学専攻、理工学専攻、医科学専攻、看護学専攻、農林海洋科学専攻、地域協働学専攻、スポーツ・芸術文化共創専攻の7つの修士課程、応用自然科学専攻、医学専攻、黒潮圏総合科学専攻の3つの博士課程及び教職実践高度化専攻（教職大学院）を有し、特徴的な教育・研究を行っています。

キャンパスは、高知市の朝倉キャンパスと南国市の物部キャンパス及び岡豊キャンパスの3つがあり、日本語・日本文化研修留学生は、朝倉キャンパスに通います。

② 國際交流の実績

大学間協定校—66機関（22か国・地域）
部局間協定校—25機関（17か国・地域）
コンソーシアム協定—1（5機関、2か国）
※令和7年5月1日時点

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数104人、日研生1人
2024年：留学生数114人、日研生1人
2023年：留学生数93人、日研生1人
※各年5月1日時点

④ 地域の特色

高知県は、西日本に位置する四国の南部にあります。北は四国山脈がつらなり、南は太平洋に面しています。年間を通じて暮らしやすい温暖な気候で、四季折々の豊かな自然を楽しむことができます。

地方文化にも恵まれています。自由民権運動発祥の地として、近代日本の形成に大きな役割を果たした土地もあります。

高知市街には美しい鏡川が流れ、市内随所に歴史的な観光名所があります。

日本の主要都市からの所要時間は、空路を利用すれば大阪空港まで45分、東京（羽田）空港まで1時間20分です。そのほか、福岡、名古屋へも国内便があります。空路のほかにも、長距離バス、鉄道などが利用できます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

留学生科目として、「日本語」、「日本事情」の科目を履修するとともに、専門科目に関しては、「異文化理解」や「言語習得・言語教育」、「外国语としての日本語」などを履修することができます。

また、基礎的な日本語力や日本文化などを広く学びたい留学生のためには、グローバル教育支援センターが開講している日本語総合コースの授業も受講できます。

日本語の実践的な運用能力を習得するとともに、専門授業を通して多文化共生力を養うことができます。

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

1) 日本語能力

日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験（JLPT）」N1、N2保持者またはこれと同等の日本語能力を有する者

※N2レベルの者は渡日後、グローバル教育支援センター開講の日本語総合コース（単位不認定科目）を受講すること

2) 日本研究学習歴・専攻

日本語・日本文化に関する分野の専攻者

⑤ 達成目標

- ・日本語による討論と論文作成能力の習得
- ・母国では実施できない研究の遂行
- ・修了レポートを作成し報告会にて発表

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月上旬～2027年8月下旬
(在籍期間：2026年10月1日～2027年8月31日)
(修了式は2027年8月を予定)

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬 渡日
- 10月 新入留学生オリエンテーション
地域との交流活動
- 11月 外国人留学生課外研修
黒潮祭（大学祭）
- 12月 協定校の学生との交流活動
- 5月 地域との交流活動
- 6月 日本語講演会
- 8月 修了式
- 8月下旬 帰国

その他

地域の国際交流団体などが主催する留学生向け各種イベントを紹介します（ホームステイ、着物着付け体験、紙すき体験など）。
地域住民と交流できるイベントにも参加できます。

⑨ コースの修了要件

- ・必修科目14単位、選択科目を含め14単位以上を取得する必要があります。
- ・研究報告書作成並びに研究発表会修了時には、「修了レポート」を提出し、指導教員の合格判定を得なければなりません。
- ・早期修了不可。
- ・成績証明書の発行可

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

日本語能力の向上を図るとともに日本事情・日本文化に関する研修を行い、アカデミック日本語能力の向上並びに日本文化に対する理解を深めます。また、高知の地域文化に触れ、体験活動を通して、日本語・日本文化研修留学生の目線から地域振興にも貢献できる人材育成をめざします。

※単位認定について
学期（2学期制）毎に単位認定を行ってます。

1) 研修・コース科目の特徴

留学生は、必修科目に加え、個人の学習・研究テーマに合わせて共通教育科目や学部専門科目から授業を選択することができます。

2) 研修・コース開設科目

- I) 必須科目（9コマ）・内容
日本語I（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情III・・・日本の文化を学ぶ
異文化理解・・・日本人学生との共修
外国語としての日本語・・・
日本人学生との共修
日本語III（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情IV・・・日本の文化を学ぶ
地域文化理解・・・地域の文化を学ぶ

II) 選択科目（8コマ）・内容

- 日本語II（2コマ／週）・・・上級日本語
日本事情I・・・日本文化を学ぶ
日本事情II・・・日本文化を学ぶ
日本語学概説・・・日本語文法と表現を学ぶ
日本語学特講・・・社会言語学・認知言語学を学ぶ
スタディ・スキルとしての日本語表現・・・
日本人学生との共修
言語習得・言語教育・・・
日本人学生との共修

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等に参加できる科目及びその具体的な内容

必修科目の「地域文化理解」は体験型授業として設定されており、地元住民との交流を通して地域の文化を体験し理解するとともに、日本人学生との共修の中で、地域課題・地域振興を考えられる内容構成となっています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

必修科目の「異文化理解」、「外国语としての日本語」、「地域文化理解」など複数の科目で日本人学生と共に修します。いずれの科目も日本人学生と共に修することにより、異文化や地域文化、日本語の仕組みなどをより幅広い視点で学べる内容になっています。

～グローバル教育支援センター開講科目～

グローバル教育支援センターでは、「日本語能力試験」N2程度の留学生に対する日本語総合コースの授業（単位不認定科目）を開講しています。日本語・日本文化研修留学生のうち、日本語能力が不十分で、日本語総合コースの受講を必要とする留学生は受講することができます。グローバル教育支援センターによる日本語総合コース（日本語補講）で開講している科目は以下の通りです。

【日本語総合コース授業科目】

中級聴解 I & II (30時間×2)
中級会話 I & II (30時間×2)
中級漢字・語彙 I & II (30時間×2)
中級読解 I & II (30時間×2)
中級作文 I & II (30時間×2)
コミュニケーション日本語 I & II (30時間×2)
ビジネス日本語 (30時間)

⑪ 指導体制

コース責任教員：グローバル教育支援センター長

コース担当教員：グローバル教育支援センター教員
人文社会科学部教員

研修留学生指導教員：各研修留学生に担当の指導教員が設けられ、必要に応じて個別指導を行います。

■宿 舎

朝倉キャンパスには、留学生専用宿舎がないため、多くの留学生が民間アパートに入居しています。家賃20,000円～45,000円のアパートに入居している留学生が多いです。
※初期費用として月額家賃の4か月分程度が必要です。

民間アパートに入居するには、多くの場合、連帯保証人が必要です。連帯保証人が見つからないときは保証会社を利用することとなります。

女性の方で寮を希望する場合は、単身用女子寮に入居することができます。

【単身用女子寮】

寮費：約 8,300円／月
設備：机・椅子・ベッド・ロッカー・本棚・共同
自炊設備・共同バス・トイレ
場所：キャンパスから寮まで自転車で10分

キャンパス周辺は、食料品店や飲食店が多くあり、生活に便利な場所です。

■修了生へのフォローアップ

修了後もメールなどで連絡を取り合い、日本語・日本文化研修留学生が協定校出身者の場合は可能であれば教員が協定校を訪問し、留学後の学習状況について懇談を計画しています。

■問合せ先

＜担当部署＞
高知大学学務部国際教育支援室留学支援係

住所：〒780-8520
高知県高知市曙町2-5-1

TEL： +81-88-844-8683 (直通)
FAX： +81-88-844-8718
Email： gi05@kochi-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
高知大学グローバル教育支援センター：
www.kochi-u.ac.jp/international/
高知大学：
www.kochi-u.ac.jp/